

## はじめに

このたび、無事に、令和7年度徳島県小学校社会科教育研究大会が開催できることに、心より感謝を申しあげます。本校は、徳島県小学校教育研究会社会部会研究主題「未来に向けて考え続け、よりよい社会を切り拓く子どもの育成—社会に対する認識と判断する力を育む社会科学習—」を受け、本校独自の実践テーマ「自ら考え、伝え合い、未来に向かって問い合わせ続ける子どもの育成—社会的事象の見方・考え方をもとにして問題発見から問題解決に向かう授業づくり—」を掲げて、研究を進めてまいりました。これまでの本県の研究を継承し、社会的事象の見方・考え方を働かせながら、「認識」と「判断する力」の両面をバランスよく育んでいくことを通して、社会の意味やつながりが深く分かり、根拠や理由をもって選択・判断する力を身に付ける社会科学習の具現化に試行錯誤を重ねる日々が続いております。そして、「問い合わせ続ける」ことを軸に、社会を見つめ、そこで見いだした問題を解決まで進めていく一連の学びを子どもに何度も体験させることができます。県社会部会の研究主題実現に資すると考えます。悩む日々が続きますが、教職員の誰もが、この機会を、「社会科を窓口に、子どもの学力を向上させる」だけでなく「教職員自身の教育力も向上させる」実の場と捉え、誠実かつ精力的に取り組んでまいりました。

令和5年度より、子どもの学力に関わる実態調査を始め、学期ごとに全学年の子どもの学力・学習状況についての成果と課題を共有し、対策を練り、実践するPDCAサイクルを繰り返しました。これまでの実践校に学び、「聞く力」や「話す力」の育成、表現する力に培う「書いたり話したりする場」の多様化、子どもが興味・関心を抱き、ひいては「問い合わせ続ける」源となる地域教材をはじめとした教材の発見・開発等、「まだあるかも」「まだできるかも」と、教職員自身が自他に問い合わせております。嬉しいことに、「学習内容の理解への自覚」「授業への参加意欲」「探検や見学、調べ学習などへの関心」「他者との関わりへの関心」等、取組の手応えを感じる姿やデータも見られつつあります。

ただ、研究は道半ばでございます。令和8年度の第64回全国小学校社会科研究協議会研究大会に向けて、理論面・実践面とより緻密な取組の必要性を感じております。本日の公開授業や大会要項・研究紀要をご覧いただき、ご参加の先生方からのご意見やご指導を研究継続の支えにさせていただきたく存じます。

結びになりましたが、令和6年度には、文部科学省教科調査官・小倉勝登先生にご来校いただき、直接にご指導を賜る機会に恵まれました。また、本日ご講演をしてくださる帝京大学教授・鎌田和宏先生にもおいでいただき、多くのご示唆を賜りました。何より、本研究大会の開催並びにこれまでの研究推進にあたり、常に寄り添ってご指導・ご協力を賜りました、徳島県小学校教育研究会社会部会・永井武会長様、授業協力者の皆様、県社会部会役員・事務局の皆様、熊山剛会長様をはじめ徳島市・名東郡社会部会の皆様、全国大会に向けて共に歩む徳島市助任小学校の皆様、徳島市当局・徳島市教育委員会並びに佐那河内村教育委員会の皆様、そして本校PTA、学習協力を賜りました地域の皆様に心よりお礼を申しあげます。

これまでの収穫を糧に、令和8年度の全国小学校社会科研究協議会研究大会へと、さらに精進を重ねてまいります。

令和7年11月21日

徳島市沖洲小学校校長 米田直紀

## 研究紀要〈目次〉

---

はじめに

### I 研究主題

1	主題設定の理由	1
2	研究主題・副主題について	2
(1)	研究主題について	2
(2)	副主題について	3
(3)	めざす子どもの姿について	3
3	研究仮説	3
4	研究の構想	4

### III 研究の実際

1	研究内容に基づいた各学年の実践	
(1)	第3学年授業研究会（学年の取組・学習指導案・授業記録）	5
(2)	第4学年授業研究会（学年の取組・学習指導案・授業記録）	17
(3)	第5学年授業研究会（学年の取組・学習指導案・授業記録）	28
(4)	第6学年授業研究会（学年の取組・学習指導案・授業記録）	40
2	社会科学習意識調査	54

### III 研究の成果と課題

1	研究の成果と今後の課題	58
参考文献・研究同人		59

# I 研究主題

## 自ら考え、伝え合い、未来に向かって問い合わせ続ける子どもの育成

—社会的事象の見方・考え方をもとにして

問題発見から問題解決に向かう授業づくり—

### 1 主題設定の理由

現代社会の変化はめまぐるしい。今の子どもたちが成人し社会で活躍するころには、さらに進んでいく少子・高齢化社会のなか、生産年齢人口の減少、ICTの進展による雇用環境の変化、地球規模での環境問題やエネルギー問題等、様々な課題に直面することになるであろう。また、2019年から流行した新型コロナウイルス感染症は、人々の生活様式や考え方を大きく変化させた。災害やパンデミック等、いつ起こるかわからない未曾有の事象に対しても、よりよい解決をめざして考え続けなければならないことを目の当たりにした。変動性・不確実性・複雑性・曖昧性が顕著になり、先行きが不透明で将来の予測が困難なVUCAの時代を生きる子どもたちには、先を見通して論理的に考える問題解決能力、多様な価値観を理解し協力するコミュニケーション能力、新たな知識やスキルを習得し続ける学習意欲、などが求められる。

徳島県小学校教育研究会社会部会では、「未来に向けて考え方、よりよい社会を切り拓く子どもの育成」を研究主題とし、社会に対する認識と判断する力を育む社会科學習を通して、社会の創り手として、よりよい社会を協働して切り拓いていくことができる子どもの育成をめざしてきた。よりよい社会とは、一人一人が社会を創る主体となり、持続可能でウェルビーイングが実現される社会のことをいう。

本校の考え方も本県社会部会と軌を一にしつつ、県研究主題にある「考え方」をより焦点化して、「問い合わせ続ける」ことを研究の軸とする。問い合わせをもつことが、学びの起点となったり、考えることがより明確になったりする。また、「知りたい」「聞きたい」といった、主体的な態度や他者との関わりのきっかけにもなる。そして、問い合わせるために、社会に関心をもつこと、社会を知ること、自らの考え方を他者と伝え合い、より多くの考え方を触れるなかで、自己や集団の認識をひろげ深めていくことが求められる。

しかし、「令和4年度 小学校學習指導要領実施状況調査の結果について」では、「社会に見られる課題を捉え、社会への関わり方を考えようすること」に課題があるとされている。本校の子どもも例外ではなく、社会への関心や主体性が高いとは言いがたい状況にある。學習する問題は与えられるものだと認識し、どこか他人事に感じている子どもも多い。令和5年度に実施した児童用アンケートでは、「自分の意見や考え方をもとに、話し合いができる」と「自分が調べたことや考えたことを発表しているときが楽しい」と答える子どもの割合が低い。自分の意見をもつことやそれを表現することに苦手意識をもつ子どもが多いことが明らかになった。さらに「學習後も引き続き問題について考えている」という回答は、特に低い結果となった。

以上のことを踏まえ、自ら問い合わせをもち、よりよい解決に向けて考え方、伝え合いながら、自分なりの答えを導き出し、さらに問い合わせ続ける子どもの育成をめざして、本校研究主題を設定した。

## 2 研究主題・副主題について

### (1) 研究主題について

#### ① 「自ら考える」について

本研究では、子どもたち一人一人の「考える活動」に重きを置く。

「自ら考える」とは、他者の考えを受け止め、受け入れたり倣ったりする姿勢も大切にしつつ、問題を自分事として、共感したり比べたりして、考えていくことと捉える。

子どもたちが、問題を見いだし、その解決をめざして、必要な情報の取材・収集・取捨選択や、考え（アイデア・価値等）の形成・吟味・表現を行うにあたり、常に「私は…。」「私なら…。」と主体的に考えるよう働きかけ、習慣化することをめざす。

#### ② 「伝え合う」について

「伝え合う」とは、一方的な発言でなく、他者の意見を共感的あるいは批判的に受け止め、自分の考えと比較したり、他者の意見と折り合いをつけたりするなかで、自らだけでなく学習集団の考えをも深めることをめざした活動と捉える。具体的な姿として、「以前はこう考えていたが、○○さんの意見から…。」「○○さんの意見のここは分かるけれど、自分は…。」「みんなの意見から、見えてきたことは…。」のように、比較・分類・関連・総合などの考え方を働かせながら思考が深まっていくような姿をめざした活動である。

なお、「伝え合う」には、音声言語だけなく、文字言語や資料など多様な手段を用いる。

#### ③ 「未来に向かって問い合わせ続ける」について

1時間の学習、1単元の学習、1学年の学習、さらに小学校社会科の学習を終えた後も、学習したことの意識がつながり、これまでの学習で他者と考え合ったことをもとに、「自分たちにできることはなんだろう。」「これで本当によいのだろうか。」「よりよくするにはどのようにすればよいのだろうか。」などと、自分自身で問い合わせ、社会との関わり方や社会の在り方を問い合わせ続ける資質・能力の育成をめざす。

「問い合わせ続ける」姿は、様々な場面で見られることが想定される。例えば、単元の学習中に問い合わせが生まれ、その問い合わせを意識しながら学習を進めていく姿や、単元や学年をこえて「以前はこう考えていたが、本当にそうなのだろうか。」「学習した○○は、これからどうなっていくのだろうか。」などと、繰り返し問い合わせをもち、考え続ける姿が考えられる。また、学習の場面に限らず、生活の中で社会に見られる課題を問題として察知し、社会的事象の見方・考え方を働かせながら、よりよい解決に向けて考えようとする姿もまた、問い合わせ続ける姿のひとつとして捉えている。

### (2) 副主題について

本研究における問題発見とは、子ども自らが問題に気付く、あるいは問題と捉える、問題を自分のものにすることなど、広く捉えたものであると措定する。

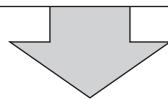
子どもは、様々な問い合わせをもつことが考えられるが、社会科らしい学びとなるように、社会的事象の見方・考え方を働かせることを意識したい。社会的事象の見方・考え方を働かせながら、子どもが自分のものとした問題は、「調べたい」「分かりたい」「伝え合いたい」という思いを抱かせる。そして、見通しをもって調べ確かめ、友達と考え話し合う活動を通して解決を図る。さらに、問題解決をするなかで、新たな問題に気付いたり、以前解決したと思っていた問題を見つめ直したりするための支援を充実させることによ

り、問い合わせ続ける子どもの育成をねらいとした授業づくりをめざしたい。

### (3) めざす子どもの姿について

#### 【めざす子どもの姿】

- 根拠や理由をもとに自分の考えをもったり決めたりしている子ども
- 他者と伝え合いながら、いろいろな視点・立場から考えを深めていく子ども
- 進んで社会に関わろうとする子ども
- 問題を自分から見つけ、解決しようとする子ども



未来に向かって問い合わせ続ける子ども

## 3 研究仮説

### ① 単元構想と振り返り

1時間の終末に次時へつながる問い合わせが生まれるように単元を構想する。そして、振り返りの中で子ども自身が自覚した問い合わせを生かして次時を展開することにより、満足感や達成感を経験し、子ども自らが意欲的に問題を発見したり解決しようしたりすることにつながり、問い合わせ続ける子どもが育つことにつながるのではないか。

### ② 認識と判断

自分の考えを「決める」「選ぶ」判断場面を意図的・計画的に設定することにより、社会的事象の見方・考え方を働かせながら、根拠や理由をもとに自分の考えをもったり決めたりするなかで、自己や他者との対話が生まれるのではないか。その過程を通して、自分の考えを表現する力、社会に対する認識と判断する力が育つのではないか。

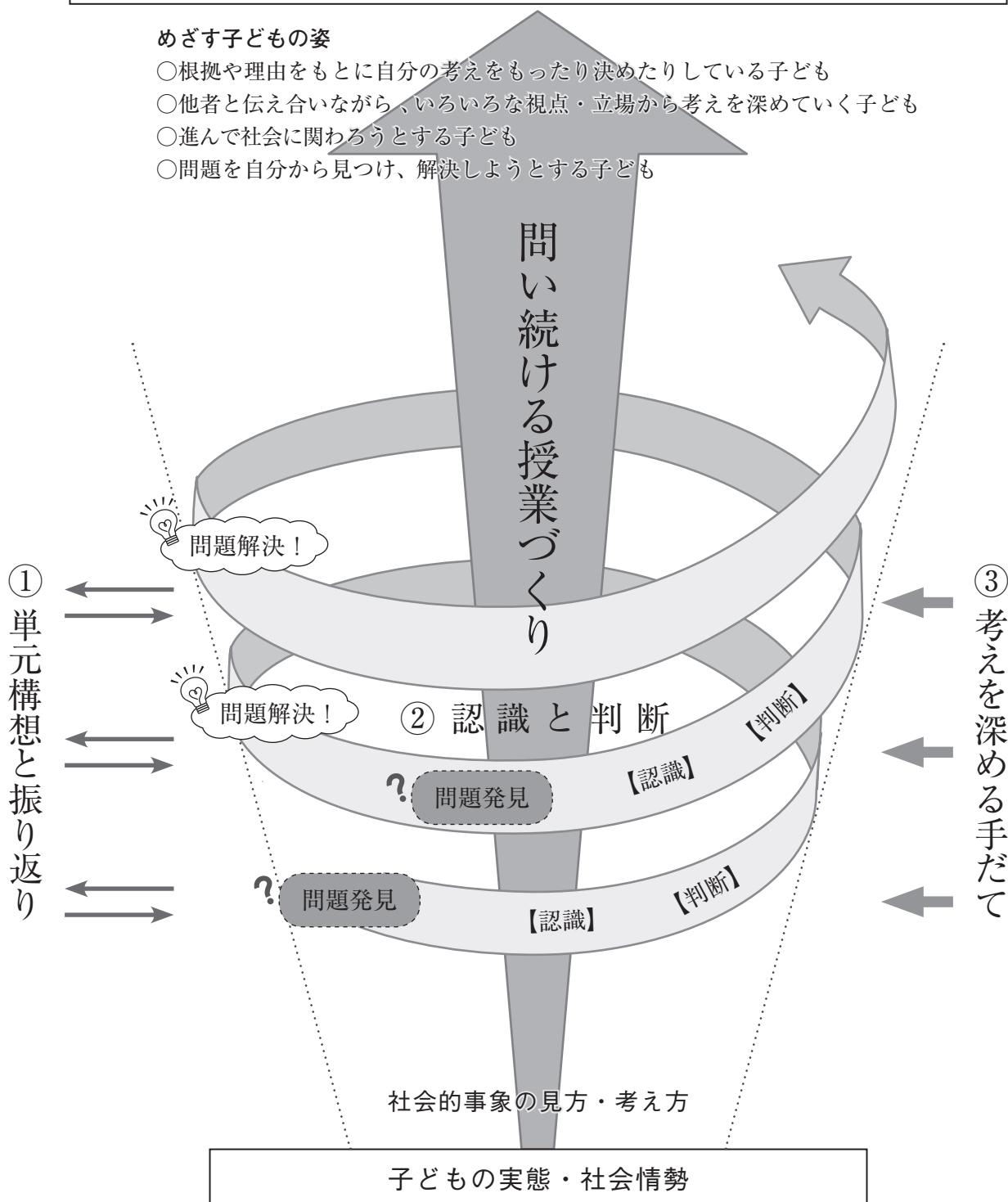
### ③ 考えを深める手立て

発問、資料提示、板書、視点や立場の明確化等の手立てを意図的・計画的に講じることにより、子どもたちは自ら考えを深め、他者と深め合う力や、多角的・汎用的に考える力が育つのではないか。

#### 4 研究の構想

徳島県社会部会主題「未来に向けて考え方、よりよい社会を切り拓く子どもの育成」  
—社会に対する認識と判断する力を育む社会科学習—

沖洲小学校主題「自ら考え、伝え合い、未来に向かって問い合わせ続ける子どもの育成」  
—社会的事象の見方・考え方をもとに問題発見から問題解決に向かう授業づくり—



## II 研究の実際

### 1 研究内容に基づいた各学年の実践

#### (1) 第3学年 単元名「ねぎづくりの仕事」

##### ① 指導の実際

###### ア 単元構想と振り返りの工夫

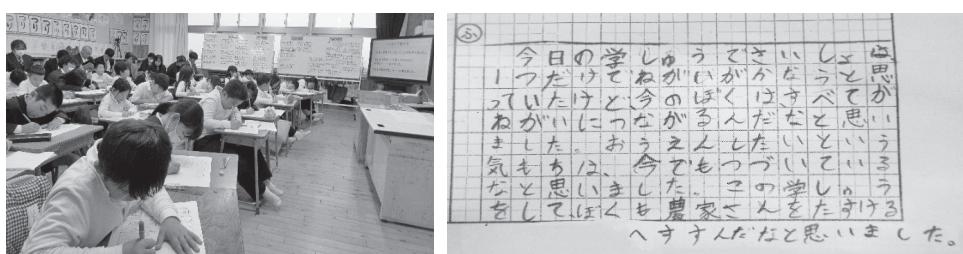
本単元は、「農家の仕事」の学習として、沖洲で一番多く生産されている農産物であるねぎを取り上げ、「沖洲のねぎづくり」として教材化した。社会的事象と豊かに関わり、子どもの意識をつなげていくことを第一に考え、単元を構想した。

日常的なアプローチとして、校区探検の地図や他教科における関連した学習内容を掲示し、朝の会や帰りの会でねぎの話題を取り上げた。また、廊下掲示に社会科コーナーを設け、学年全体で学習内容に対する興味・関心を共有することができた。

単元導入前には、沖洲の農家の人にからいただいたねぎの種を学級でまいて育てるようにし、「ねぎ」に対する関心を高めた。単元導入時には、自分たちが育てたねぎと沖洲の農家の人が育てたねぎを比較し、「ねぎづくり」に対する関心を高めた。子どもたちは、同じ種で同じ時期にまいたねぎなのに育ちが違うことに驚き、多くの疑問を発表し、それらの疑問を集約していくことにより、学習問題をつくることができた。

ねぎの生産から出荷までの流れと一致させるために、調べ学習は、農家の見学、JAの人へのインタビュー、中央卸売市場への見学という順番で行った。「次はどうなるのだろう。」という問い合わせに対して、次時に解決できる単元構想にすることにより、子どもたちの意欲が継続していった。種まき体験やゲストティーチャーと関わり、沖洲のねぎづくりに親しみや愛着をもつようになったところで、ねぎ農家がかかえる課題を提示した。子どもの意識は、自然と沖洲の農家を応援したいという方向へと流れた。その後、沖洲のねぎづくりを応援する方法と内容を考える判断場面を設定した。

振り返りでは、学習して分かったことや自分の考え、次時に調べたいことや考えたいことを書くようにした。キーワードや話題を提示したり、書き出しの文を指定したりすることにより、自分の考えや思いを文章化することができ、認識の深まりを見取ることができた。そして、次時の導入で、振り返りを紹介することにより、子どもたちの意識がなめらかにつながるなど、振り返りの活用が単元構想や展開に有効であった。



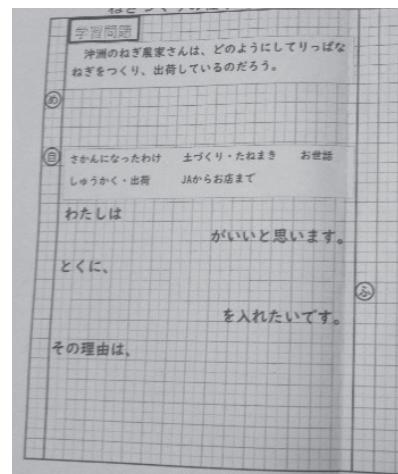
本時の振り返り

###### イ 認識と判断

3年生の段階で、判断場面を充実させるために必要な力は、自分の考えを主張する力と、他者の主張と自分の主張を比較する力であると考え、ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、考えを伝え合う場を多く取り入れてきた。

本時では、ひろげ深める段階において、「沖洲のねぎづくりを応援するCMに入れたい内容を考えよう。」という判断場面を設定した。まとめの段階で獲得した知識をさらに深める活動として判断場面を位置づけた。前時までに学習した内容をもとに、農家の人たちの願いを応援するために考えた「さ

かんになったわけ」「土づくり・種まき」「お世話」「収穫・出荷」「JAからお店まで」の5つの内容項目から選択するようにした。全員が自分の考えをもつことができるように、ワークシートを工夫し、グループでの意見交換の場を取り入れた。さらに、前時までの学習内容を掲示したり、「どうしてそう考えたの。」と問い合わせたりすることにより、根拠を明らかにし自分の主張をもつことができた。また、友達の主張を聞いて自分の主張を変える子どももいた。お互いに主張し、聞き合いながら話し合っていく中で、どの内容項目を選んでも農家の人たちの願いを応援できることになるという、より広い視野から学習内容を捉えることができ、他者と伝え合うことにより考えを深め合う活動となった。



ワークシート

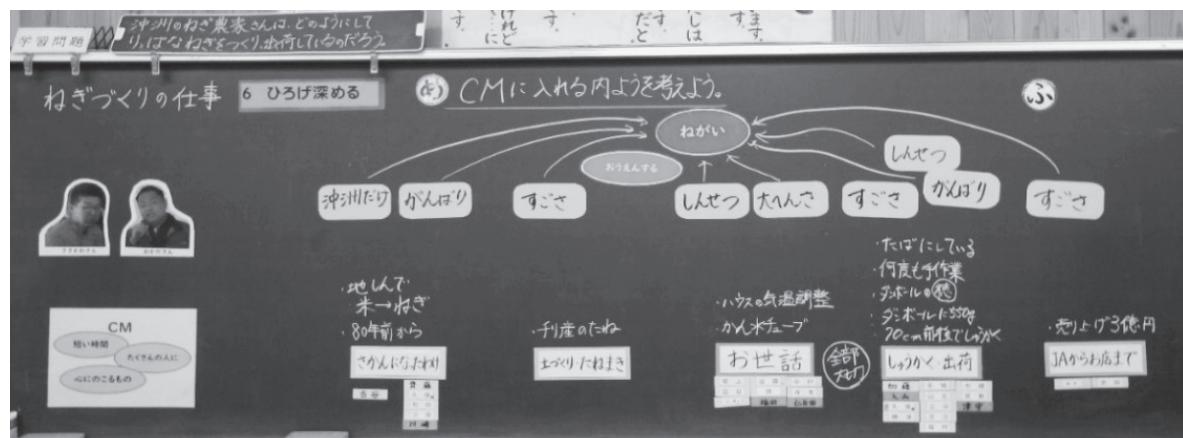
## ウ 考えを深める手立て

### (ア) 発問について

「農家の笹川さんやJAの岡田さんの願いを応援できる内容はどれだろう。」「CMは短い時間だから、すべての内容を入れることは難しいよね。どうしたらいいだろう。」と問うことにより、話し合いの目的を明確化できるようにした。また、出てきた意見に対して「どうしてそう思ったの。」と問い合わせることで考えが深まった。

### (イ) 板書について

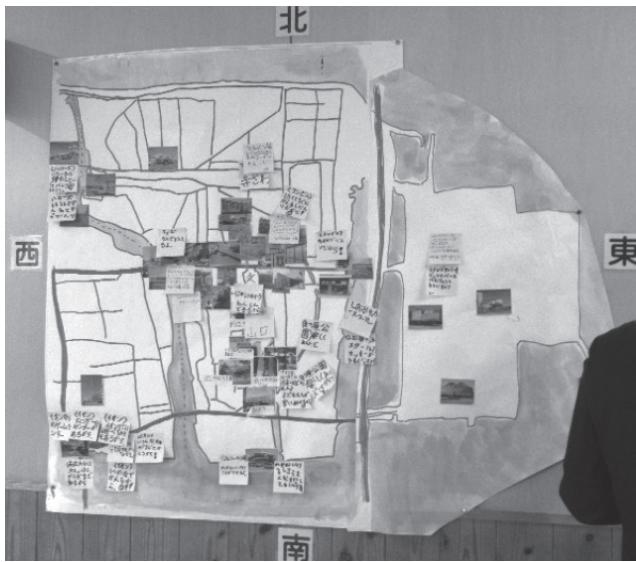
本時では、CMに入れたい5つの内容項目をはじめから板書しておき、子どもから出た意見を分類して板書することにより、考えを明確化した。話し合う中で、農家の人たちの願いを応援できると判断した内容項目と願いを線で結ぶことにより、話し合った内容を視覚的に捉えやすくした。



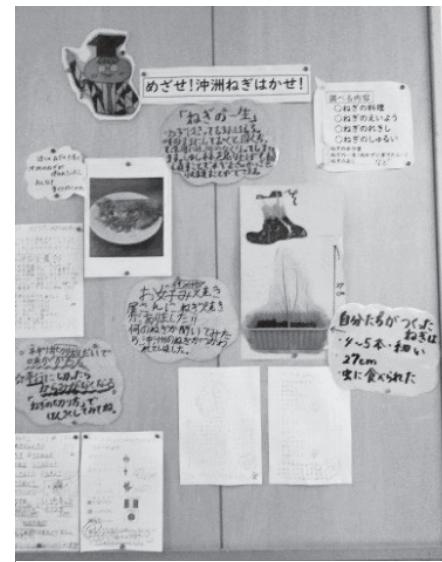
本時の板書

### (ウ) 資料について

本時までの授業の流れが分かるように、授業の板書やグラフ、写真等の資料を掲示した。教室内のホワイトボードには、学習して分かった具体的な事実を順に書いておいた。また、本单元につながる資料（校区探検の地図・品物の産地の地図・総合的な学習の時間の「めざせ！沖洲ねぎはかせ！」の学習の流れ）も壁面に掲示した。そのため、子どもたちは掲示した内容を根拠に発表することができていた。他にも廊下には、社会科コーナーを設けた。学習内容に関連した調べ学習を各自で行い、まとめた物を掲示し、学年全体で学習内容に対する興味・関心を共有できるようにした。



廊下掲示：校区の地図



廊下掲示：社会科コーナー

## (1) 視点や立場の明確化

本時では、ワークシートに、CMに入れたい内容項目と根拠、そして選んだ理由を書くようにした。内容項目は○で囲み、自分の立場を明確にした。また、根拠と理由の違いを意識できるように、根拠と理由を分けて書くようにワークシートを工夫した。ワークシートに書いた後、黒板上の内容項目の下にネームプレートを貼ることにより、自分の立場をクラス全体に知らせるようにした。授業の中盤に意見が変わった場合には、ネームプレートの色を変えて移動できるようにし、認識の深まりを自分が意識できるようにした。このことにより、意見が変わった子どもに対して、意図的指名をしやすくなった。

## (2) 考察

「子どもの意識がつながる単元構想」については、概ね教師が意図する成果を見取ることができた。見学や体験、インタビューなど社会的事象とのかかわりを豊かにすることにより、子どもの意識は途切れることなくつながっていくことが分かった。

判断場面をどの段階に設定するのがよいかという課題が残った。本時の場合、どの内容項目を選んでも農家の人の願いにつながるという結論になるのであれば、まとめの段階に判断場面を設定してもよいのではないかという考え方と、ひろげ深める段階で、話し合った結果、すべてが大事と分かることにより認識が深まるとする考え方がある。判断場面を設定する段階や内容についてもさらなる研究が必要である。

# 第3学年 社会科学習指導案

令和6年11月26日（火曜日） 5校時  
第3学年2組（29名） 指導者 竹内 海斗

## 1 単元 ねぎづくりの仕事

### 2 単元の目標

- 地域の産業の様子を、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 地域の産業の特色や意味、人々の生活との関連を考える力や、考えたことを表現する力を養う。
- 学習問題を追究・解決するために、地域の産業の様子について意欲的に調べ、特色や相互の関連、意味について粘り強く考えたり、調べたことや考えたことを表現しようとしたりする主体的な学習態度を養う。

### 3 単元について

#### （1）子どもの実態と培いたい資質・能力について

本学級の子どもたちは、生活科の学習や社会科「わたしたちのまち 沖洲」の学習を通して、沖洲では、ねぎがさかんに生産されていることを知っている。また、総合的な学習の時間において、自分たちでねぎの種をまく際には、よりよくねぎが発芽する方法を考え、ねぎづくりに対して関心を高めていた。しかし、どうして沖洲ではねぎづくりがさかんなのか、実際にどのような工程でねぎがつくられているのかを知っている子どもはほとんどいない。

そこで、本単元では、自分たちの育てたねぎと沖洲の農家の人が育てたねぎを比べることで、農家の人が様々な工夫をし、生産や出荷をしていることを学習する。そして、働く人の思いや願い、地域の人々の生活とのつながりに気付き、地域の一員であることを自覚するとともに、根拠や理由をもって選択・判断したことを表現する力を養っていきたい。

#### （2）教材について

本単元では、沖洲でさかんに生産されているねぎを取り上げ「ねぎづくりの仕事」について学習を進めていく。沖洲には農家と市場をつなぐJAがあり、さらに徳島県全域の流通拠点市場である徳島中央卸売市場もあることから、農家から消費者に届くまでに多くの仕事が関わっていることを捉えることができるだろう。沖洲では、かつて稲作などを行っていたが、昭和21年に起きた南海大地震による地質変化により稲作ができなくなったため、ねぎの生産が始まった。沖洲で生産されているねぎの中でも、JAを通して出荷されているねぎは「渭東ねぎ」と呼ばれ、平成6年に日本農業賞大賞を受賞したブランドねぎである。香りと甘みが強く、水分量が多いことが特徴である。しかし、平成28年には約750トンを出荷していたが、令和3年には約666トンに減少するなど、農家の人の高齢化や後継者不足が課題となっている。地域に見られる課題や、農家の人の思いに触れながら、自分の住む地域に愛着をもてるよう学習を進めていきたい。

### (3) 単元の構想

〔学習指導要領との関連〕 第3学年 内容(2)

地域に見られる生産や販売の仕事

〔単元の学習問題〕 沖洲の農家の人は、どのようにしてりっぱなねぎをつくっているのだろう。

〔中心概念〕 わたしたちのまちには、農業を仕事にしている人たちがいる。農家として働く人たちは、地域とのつながりの中でさまざまな工夫をして生産や出荷などの仕事をしている。



・市内にはどのような生産の仕事があるか、それらはどこに集まっているか、どのように生産されているかなどの問い合わせを設けて調べたり、生産の仕事と地域の人々の生活を関連付けて考えたりする。

### (4) 子どもの意識がつながる単元構想について

単元導入前に、沖洲のねぎ農家の人にからいただいた種を学級でまき、ねぎを栽培しておく。本単元に入つてからは、自分たちが育てたねぎと沖洲の農家の人が育てたねぎを比べることで、ねぎづくりへの関心を高めるようにする。農家の見学や、JAの方へのインタビュー、中央卸売市場への見学を通して、沖洲のねぎづくりの特徴や出荷量、出荷先について学習を進めていくとともに、沖洲のねぎづくりに対する愛着をもてるようになる。その上で、ねぎづくりをしている農家が減少していることを示す資料を提示し、沖洲のねぎづくりの未来について考え方とする意識を高めていく。その後、これからも沖洲のねぎづくりを応援する方法を考え、話し合う場面を設けることにより、自分たちにできることを選択・判断することを通して、沖洲のねぎづくりについて理解を深めることができるようしたい。

また、総合的な学習の時間で、ねぎについての学習を行い、沖洲のねぎや、ねぎづくりへの愛着をさらに高め、課題のある沖洲のねぎ農家を応援したいと思う意欲を高められるようにしたい。

#### 4 指導計画（全11時間）

段階	学習活動 ・子どもの反応	◇手だて ◆判断を求める問い合わせ	評価
問題をつくる	<p>(1) <u>徳島市内では、どのような農作物がつくられているのか調べる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島市内ではお米がたくさんつくられていて、家で食べたり給食に出たりしているんだね。</li> <li>・沖洲ではねぎがいっぱいつくられているよ。</li> <li>・わたしたちもねぎを育てていたよ。農家の人が育てたねぎとどう違うのかな。</li> </ul>	<p>◇徳島市全体の農作物の作付面積の資料を提示することにより、農家の仕事の学習に向けて関心をもつことができるようにする。</p>	知①
	<p>(2) <u>疑問を出し合い、学習問題をつくる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしたちが種をまいたねぎが育っているね。</li> <li>・同じ種なのに、どうしてこんなに育ちがちがうのかな。</li> <li>・農家の人はどんな工夫をしてねぎを育てているのだろう。</li> </ul>	<p>◇自分たちで育てたねぎと農家の人が育てたねぎを比較する場を設定することにより、主体的に学習問題をつくることができるようにする。</p>	思①
予想をする 調べ方をする	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>〔学習問題〕沖洲のねぎ農家さんは、どのようにしてりっぱなねぎをつくり、出荷しているのだろう。</p> </div>		
	<p>(3) <u>学習問題について予想し、学習計画を立てる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖洲の土地がねぎづくりに向いているんじゃないのかな。</li> <li>・機械や道具を使って育てているんだと思うよ。</li> <li>・沖洲でねぎをつくっている農家の人に、実際にインタビューをしてみたいね。</li> </ul>	<p>◇前時の学習で出た疑問を振り返ったり、校区探検で見つけたねぎ畑の写真を提示したりすることにより、根拠をもって予想できるようにする。</p>	態①
調べたりし查明する	<p>(4)(5) <u>農家を見学して、沖洲のねぎづくりについて調べる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂地で育てていた。砂地は水はけがよくてねぎづくりに向いているなんて驚きだ。</li> <li>・昔はねぎを育てていなかったけど、地震があって客土をしたことで、今の土地に変えていったんだね。</li> <li>・肥料のやり方で育ち具合を調節しているんだね。</li> <li>・おいしいねぎをつくるために、いろいろな工夫をしていたんだね。</li> <li>・収穫や出荷は実際どのようにしているのかな。</li> </ul>	<p>◇事前に予想をワークシートにまとめておくことにより、見通しをもって見学できるようする。</p>	知①
	<p>(6) <u>ねぎの収穫や出荷の様子について調べる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手作業で収穫しているんだな。</li> <li>・束にしたねぎを段ボールに入れていたな。</li> <li>・段ボールに入れたねぎはどこへいくんだろう。</li> </ul>	<p>◇事前に撮影した収穫・出荷の動画を提示することにより、収穫・出荷についてまとめるができるようする。</p>	知①
	<p>(7) <u>JJAの人の話を聞き、ねぎはどこへ出荷されているのかを調べる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府にたくさん出荷されているんだね。</li> <li>・保冷車を使って、ねぎの新鮮さを保ちながら大阪に運んでいるんだね。</li> <li>・徳島県内に向けて中央卸売市場にも出荷されているようだけど、どれくらい出荷されているんだろう。</li> </ul>	<p>◇事前に、調べる内容をワークシートに書かせておくことにより、見通しをもって見学できるようする。</p>	知①
	<p>(8) <u>中央卸売市場を見学し、市場に届いたねぎの行方について調べる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの野菜や果物が売られているな。</li> <li>・徳島県内のスーパーに出荷されているんだね。</li> <li>・大阪府だけじゃなくて、わたしたちのもとにもこうしてねぎが届いているんだね。</li> </ul>	<p>◇市場の人の話や、パンフレットを提示することにより、ねぎづくりに関わる仕事と自分たちの生活とのつながりに気付くことができるようする。</p>	知①

みんなで考え方話し合う	<p>(9) <u>沖洲のねぎづくりについてまとめる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・りっぱなねぎをつくるために、いろいろな工夫や取組をしていたね。</li> <li>・農家の仕事は自分たちの生活とつながっているんだな。</li> <li>・自分たちに届くまでにたくさん的人が関わっているな。</li> <li>・ネットハウスの中にねぎじゃなくて、草がいっぱいだ。</li> <li>・あんなにおいしいのにもうけが減っているなんて。</li> <li>・本当にこんなことになっているの。</li> </ul>	<p>◇予想した項目ごとに整理できるようにワークシートを工夫することにより、農家の人は地域とのつながりの中でさまざまな工夫をして生産や出荷などの仕事をしていることが理解できるようになる。</p> <p>◇放置されたネットハウスの写真や、ねぎの収入が減少しているグラフを提示することにより、沖洲のねぎ農家が抱える課題に気付くことができるようになる。</p>	知② 思②
ひろげ深める	<p>(10) <u>沖洲のねぎづくりを応援する方法を考える。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねぎ農家の人はいろんなことに困っていたなあ。</li> <li>・どうすれば農家の人が減るのを止められるんだろう。</li> <li>・わたしたちにできることを考えよう。</li> <li>・今までに新聞やポスターを作ったことがあるよ。</li> <li>・できるだけたくさんの人を見てもらうためにはどんな方法がいいんだろう。</li> <li>・CMが一番よさそうだね。</li> <li>・CMに入れる内容は何がいいんだろう。</li> </ul> <p>(総合) CMづくりの約束を考える。</p>	<p>◇農家の人のへのインタビュー動画を提示することにより、沖洲のねぎづくりを応援したいという意欲を高めることができるようになる。</p> <p>◇「たくさん的人に見てもらえる・見た人の心に残る」という視点を設定することにより、沖洲のねぎづくりを応援する方法を選択できるようになる。</p> <p>◆沖洲のねぎづくりを応援するために自分たちにできることはなんだろう。 【判断（関わり方）】</p>	思② 態②
	<p>(11) <u>CMに入れる内容を話し合って決める。(本時)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖洲のねぎがおいしいわけを伝えたいよね。</li> <li>・いろんな理由があったよね。特に○○は入れたいね。</li> <li>・決まったことがよく伝わるCMを作りたいな。</li> </ul> <p>(総合) CMづくりを進める。</p>	<p>6 本時の学習を参照</p> <p>◆CMに入れる内容は何がいいだろう。【判断（深く分かる）】</p>	思②

## 5 単元の評価規準

知識・技能	<p>① 農作物などをつくる仕事の種類や、田や畑の場所や産地の分布、働く人の仕事の工程などについて見学・調査したり地図などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、生産に携わっている人々の仕事の様子を理解している。</p> <p>② 調べたことを文章や白地図にまとめ、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解している。</p>
思考・判断・表現	<p>① 農作物をつくる仕事の種類や、産地の分布、仕事の工程などに着目して、問い合わせだし、生産に携わっている人々の仕事の様子について考え表現している。</p> <p>② 農作物をつくる仕事の種類や、産地の分布、仕事の工程など、調べたことを手がかりに、生産の様子と地域を結び付けて地域に見られる生産の仕事と地域の人々との関連を考え、適切に表現している。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>① 地域に見られる生産の仕事について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題に取り組み、解決しようとしている。</p> <p>② 自分たちに協力できることを考えようとしている。</p>

## 6 本時の学習 (11/11)

<b>本時のポイント</b>	CMに入れる内容を決める場を設定することにより、沖洲のねぎづくりについて、学習内容を根拠とした自分の考えをもち、表現することができるか。	
<p><b>(1) 本時の目標</b></p> <p>沖洲のねぎづくりを応援するCMに入れる内容を話し合う活動を通して、学習内容を根拠として考えを表現することができる。</p> <p><b>(2) 本時の展開</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>子どもの意識の流れ</b> (□…本時のめあて、□…子どもの意識、□…主な問い合わせ、■…主な資料)</p> <p style="text-align: center;">どうしてCMを作ることになったのかな。 ■掲示資料</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">           ねぎづくりに関わっている人の願いを応援したいから。         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">           沖洲のねぎをたくさん的人に知ってほしいから。         </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">CMに入れる内容を考えよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">           さかんになったわけ         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">           種まき 土づくり         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">           お世話         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">           収穫 出荷         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">           JAから お店まで         </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">【判断を求める問い合わせ】 CMにどの内容を入れたいか考えよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 30%;"> <b>さかんになったわけ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南海地震の後、沖洲の土地にあった農作物を研究していたね。これまでの努力もみんなに伝わってほしいな。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 30%;"> <b>収穫・出荷</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいなねぎを届けるために1本1本を丁寧に手作業で収穫していたことを入れたいな。</li> <li>・箱詰めや、いらない葉を手作業でとっていたり、サイズごとに分けたりしていたことを伝えたいな。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 30%;"> <b>ねぎ農家さんの願いや思い</b> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 30%;"> <b>JAからお店</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・70%が大阪、30%が徳島の市場へ出荷されていたね。徳島でも沖洲のねぎが食べられることを伝えたいな。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 30%;"> <b>土づくり・種まき</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水はけがよい砂地にするために何年かに一度客土をして土づくりをしていたことを伝えたいな。</li> <li>・また時期をずらして1年間ずっとお客様にねぎを届けられるようにしていたことも大切だと思うよ。</li> </ul> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 30%;"> <b>お世話</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よいねぎをつくるために季節によって水をやる量を変えていたことを伝えたい。</li> </ul> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 30%;">           みんなの意見を聞いて、どの内容を選んでも、ねぎ農家さんの願いを応援することにつながることに気付いたよ。         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 30%;">           どれも願いにつながることが分かったので、CMにしたときには、たくさんの人々に思いが伝わってほしいな。         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 30%;">           はじめはどれか1つだけで願いを応援できると思っていたけど、全部大切だということに気付くことができました。         </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">農家さんの思いや、ねぎづくりの素晴らしいことが伝わるCMを作っていくね。</p> </div>		
<b>学習活動</b>	◇手だて ◇評価 (～) 本時のポイントに関わる手だて	
<p><b>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</b> ⑤</p> <p>◇ 沖洲のねぎ農家の願いを振り返ることにより、沖洲のねぎづくりを応援したいと思う意欲を高められるようにする。</p> <p><b>2 自分の意見を決める。</b> ⑩</p> <p>◇ グループで意見を出し合う場を設定することにより、自分の意見を明確にし、ワークシートに記述することができるようする。</p> <p><b>3 CMに入れたい内容について、根拠をもとに話し合う。</b> ⑯</p> <p>◇ 黒板にネームプレートを貼って、自分の考えを表現できるようにすることにより、自分の立場を明確に捉えることができるようする。</p> <p>◇ これまでの学習内容を確認することにより、根拠を明らかにして説明することができるようする。</p> <p>◇ 全体で話し合ったことを、整理して板書したり、問い合わせしたりすることにより、理解を深められるようする。</p> <p><b>4 本時の学習を振り返る。</b> ⑯</p> <p>◇ 振り返りの例を提示することにより、考えを焦点化して書くことができるようする。</p> <p>◎ 学習してきたことを根拠にCMに入れる内容を考え、説明している。</p> <p>【思②】(発言・ワークシート)</p>		

## 授業記録

教師の発問・支援	子どもの発言・反応
<p>○前回の授業でCMを作ることになったね。 どうしてCMを作ることになったのかな。</p> <p>○ねぎづくりに関わっている人ってどんな人がいたかな。</p> <p>○ねぎづくりに関わる人たちの願いを応援するためにCMを作ることになったんだったね。</p> <p>○ささかわさんやおかださんの願いって何だったかな。</p> <p>○CMには総合で学習した内容と、社会科で学習した内容を入れることになったね。 今日はその社会で学習した内容でCMに入れたい内容を考えていきます。</p> <p>○今日のめあては「CMに入れる内容を考えよう。」です。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈めあて〉 CMに入れる内容を考えよう。</p> </div> <p>○これまで5つの内容に分けて学習してきたと思うけど、何だったかな。</p> <p>○この5つの内容の中から、自分がどれをCMに入れたいか選んで、ワークシートに丸を付けましょう。</p> <p>○班でどれに丸を付けたのか話してみましょう。 他の人と意見が違っていてもいいからね。</p> <p>○理由まで説明している人もいると思うんだけど、今から理由をワークシートに書いていきましょう。 (理由の書き方の例示) (これまでの学習内容の掲示)</p> <p>○書けた人は、自分のネームプレートを選んだ内容の下に貼っていってください。</p> <p>○自分の考えを発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖洲の農家を増やすため。</li> <li>・農家が減ってきたから、応援するため。</li> <li>・ささかわさん。</li> <li>・おかださん。</li> <li>・たくさん的人に食べてほしい。</li> </ul> <p>(本時のめあてを書く。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さかんになったわけ</li> <li>・お世話</li> <li>・土作り、種まき</li> <li>・JAからお店まで</li> <li>・収穫、出荷</li> </ul> <p>(ワークシートに丸を付ける。)</p> <p>(・私はJAからお店までがいいと思います。特に厳しい検査をしていることを入れたいです。その理由は…という形でワークシートに書く。)</p> <p><b>【収穫・出荷】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に東にしていることを入れたい。お客様のために多くしているから。500gを550gにして売っている。</li> </ul>

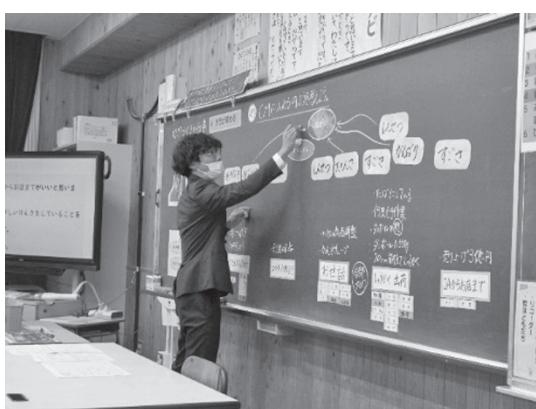
○どこ産なのかを知ったらどう思うかな。

○どこ産なのかを知ったらねぎ農家は増えるんですか。



○もう一度手作業できれいにしていることを知つたらどう思うかな。

○始めてみようと思う人もいるだろうし、そんなにおいしいんだったら食べようと思う人もいるかもしれないね。すごさが伝わるね。



### 【お世話】

- ・水やりをしていることを入れたい。

### 【収穫・出荷】

- ・どれくらいまで育てたらいいかを伝えたい。

### 【収穫・出荷】

- ・まる徳を入れたい。徳島だということをアピールしたいから。

### 【土づくり、種まき】

- ・どこ産のねぎなのかを知らせたい。→チリ産びっくりすると思う。
- ・種を注文しやすい。(自分が農家になった場合)

### 【お世話】

- ・夏のハウスは暑いから換気扇を回して気温を調節していることを入れたい。
- ・みんなに新鮮なねぎを食べてほしいという気持ちが伝わる。

### 【出荷】

- ・手作業できれいにしていたことを入れたい。こんなに細かいことまでしているんだと思う。

### 【お世話】

- ・換気扇で気温調節するお世話の大変さを伝えた

### 【JAからお店まで】

- ・売上金を見せたらすごいと思って農家を始めてみようかなと思うから。

### 【さかんになったわけ】

- ・80年前からねぎづくりが始まったこと。始まつたきっかけが沖洲にしかないから。
- ・全部入れたい。種まきだけだったらどうやって出荷されているのか分からないからどんなふうに運ばれているのか分かってほしいから。

### 【さかんになったわけ】

- ・地震の影響で種まきができないことを入れたい。どうして、沖洲はねぎばかりつくっているのか知ってほしい。

<p>○自分の意見が変わったり、揺らいだりした人はいますか。その人はネームプレートを動かしてください。</p> <p>○どうして考えが変わったの。</p> <p>○農家さんの頑張りや親切さを伝えることが、農家さんを応援することにつながるってことかな。</p> <p>○「大変」、「すごさ」、「親切」は願いを応援することにつながっていることは分かってきたけど、「沖洲だけ」や「頑張り」とかはどうだろう。CMに入れなくともよさそうかな。</p> <p>○ということは、全部の内容が大切なんじゃないかな。どの内容を入れても願いを応援することにつながりそうかな。</p> <p>○CMの内容をどうしていくか、具体的な内容は総合の時間に決めていきましょう。</p> <p>○今日話し合って分かったことは、どの内容も農家さんの願いを応援するためには大切だということだね。</p> <p>○最後に振り返りを書きましょう。 (電子黒板に振り返りの言葉を例示) (今日の学習で○○ということが分かりました。話し合う前は○○と思っていたけど学習して…と思いました。友達の意見を聞いて…と思いました。)</p> <p>○これから、沖洲のねぎづくりにかかわる人の願いや思いを伝えるために総合の時間にCMをつくっていきましょう。</p>	<p><b>【収穫、出荷】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東にしている。親切さを伝えたい。</li> </ul> <p><b>【土づくり・種まき】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がねぎ農家になったとき、どこの種なのかを知っていたら注文しやすい。</li> <li>・農家さんの頑張りや、親切なところをみんなに知ってほしいから。</li> <li>・大変だけど頑張っていることを伝えるのは農家さんを応援することにつながると思う。</li> <li>・絶対いると思う。</li> <li>・全部つながりそう。</li> </ul> <p><b>【振り返り】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべて大切だということが分かった。</li> <li>・なんで渭東ねぎが好きなのか知りたい。</li> <li>・全部大切だと分かった。</li> <li>・初めは、全部がささかわさん、おかださんの応援になるとは思わなかったけど、学習で全部大切だと分かった。</li> <li>・農家さんの応援や願いをかなえるためにはすべて大切だということ分かった。</li> <li>・○○さんの意見を聞いて、すべて大切だということが分かった。</li> </ul>
---	---

## ホワイトボード1：調べて分かったこと

JAから出荷	JJAからお店まで
70cm前後で しゃくかく。	運ぶトラックの中でもう1つ! 中はまだ知らない ように。
きかいできれいにした後、 切り度手作業できれいに していった。	きれいな室は3つに JAがある ひやしている。
きかいでしゃくかくすると、 葉がぶぶれるから手作業 でしゃくかしている。	検査や分荷を している。
お客さんに親切に!! (たばこで売る)買 ふるえる。	つめたい空気を入れ ためにガスボルトの穴を あけている。
ダンボールに550gのね を10たばこ入りで出荷する。	徳島と大阪の市場 にねぎを売っている。
JAにもっていく。	ねだんは買ってくれが が決めている。
徳島のねぎだよ!! アピールするための標 記。買ってくれる人が見える	1日に10~30人 くらいがねぎを待ってる。 トラックでしゃくかれて いる。
	午後6時には収して、 午後10時に大阪の市場に とどく。
	1年間の売り上げが 3億円!!
	よくほや大きめの きゅう食で使われている。
JJAで働く人は (沖縄州) 3人。	1年間に66000kg を出荷している。

## ホワイトボード2：調べて分かったこと

さかんにならう。 わく	土づくりにねまき	お世話
地じんのえいきょうで 田んぼで木作りができない な。た。	1年中ねまきを出荷できる ように、「ねまき」と時季を 合わせてやっている。	夏のハウスは暑から かんきせんを回して、気温 を調節している。
80年前にねまき作りが はじめた。	夏は3ヶ月、冬は 6ヶ月で育つ。	きかいで、水やりや えさといひからをあけている
沖洲の海から すなをもってきた。	すなをいふかふかにして いる。(ねまきにストレスを あたえないやつ)	外は、かん水ホースで 水やりをしている。
50年前にねまき農家 がふえ、さかんにならう。	2ヶ月半～3ヶ月くらい 間をあけたうねまき	天気によって、とれりねまき りゅうや、りゅうかどうかが 変わらないようにハウスを使つ。
日本農業賞大賞	しゃかいたい日に合わ せてうねまき。	ねまきが大きくなったら、 水をやるりゅうを少なくして、 きせつによ、下水をやる りゅうをかけている。

## 学習の流れ

## (2) 第4学年 単元名「水はどこから」

### ① 指導の実際

#### ア 単元構想と振り返りの工夫

本単元では前単元の「ごみはどこへ」との関連を踏まえ、前単元の学習をもとに予想したり調べたりできるようにすることで、子どもの意識がつながるように、単元構想を行った。

単元導入前には、水道事業に関連のある図書を学級文庫に置いたり、理科の学習と関連付けて水のろ過装置を作ったりし、学習への意欲を高めた。また、浄水場の写真を廊下に掲示し、自由にコメントを書けるコーナーを設置しておくことにより、「水がたくさんある。」「これは何だろう。」「ごみ処理の施設と関係があるのかな。」などの問題意識が生まれ、関心をもって学習を始めることができた。

単元の導入では、自分たちの生活や地域社会の中で、どのような場面で水を使っているかを考え、水は生活に欠かせない資源であることを捉えられるようにした。また、ペットボトルを提示し、毎日使っている水の量の多さを視覚的に実感できるようにした。そして、第2時では、「こんなにたくさんの水を、どのようにしてつくっているのか。」「どのようにして、蛇口まで届くのか。」など、子どもたちの疑問をもとに学習問題作りを行った。

本時では、学習問題「わたしたちがくらしの中で使っている水は、どのようにして送られてくるのだろう。」に対する予想を、「どこの水か」「どんなことをしているか」「どのように届けているか」の3つの観点から考えた。「集めたごみのように、何か処理がされているかもしれないね。」と教師が声をかけたり、「ごみはどこへ」の学習で使用した資料を教室に掲示しておいたりすることにより、前単元の学習を想起しながら予想することができるようにならした。子どもたちは、「ごみは工場できれいにしていたから、水も工場できれいにしていると思う。」「ろ過装置で、川の水をきれいにしている。」など、これまでの学習や生活経験などをもとに予想することができた。

前単元とのつながりを意識づけることにより、本時以降の学習でも、「ごみを減らす工夫をしていたから、水も使う量を減らす工夫をしているのではないか。」「運び方が、ごみと違って驚いた。」「ごみ処理と同じように、手作業も必要だから大変だ。」など、子どもが自ら、ごみ処理の仕事と比較しながら調べたり考えたりする場面が見られ、考えを深めることに役立った。

振り返りでは「書き方の例」を示し、学習して考えたことのほかに、友達の意見を聞いて考えたことやこれから学習で調べたいことなどを書くことができるようにならした。次の時間の学習に対する予想を書かせることも、子どもの意識をつなげるために有効だった。

Ⓐわたしは、今日の学習で学習問題を書きました。それで「わたしたちが生活の中で使正在の水は、どのようにしてとだけられるのだろうか?」となりました。後半、どうなるのか楽しみです。  
わたしは、雨水を使正在とすごくきれいにしています。つか、やれるのではないか。ということが気になります。

Ⓐ・いろいろな予想や調べ方が出たから、それをもいかしていろいろ調べていきたい。  
・川の水や海の水などを集めていると思つけど、どこの川の水やどこの海の水なのかなしが。  
・わたしは、はじめは、川の水だけだと思つていなければ、友達の発表を聞いて、雨水や、海の水もあるのかなあと思つた。

#### 前時（第2時）の振り返り

#### 本時の振り返り

#### イ 認識と判断

本時では、予想を出し合った後に「水道の仕事のどんなところに手間をかけていそうかな。」と問う判断場面（見通しをもつことにつながる判断）を設定した。「水を集めめる方法。川や海からたくさんの水を集めるのは大変だから。」「水をきれいにする方法。工場できれいにしても、最後にチェックをしないといけないと思うから。」「水をきれいにする方法。見えないものをきれいにしないといけないから。」など、多くの子どもが、前単元までの学習や本時までの学習、生活経験などを根拠にし、自分なりに判

断することができていた。

## ウ 考えを深める手立て

### (ア) 発問について

予想を出し合う中で、「『ごみはどこへ』の学習のときはどうだったか。」と問うことにより、前単元の学習内容を想起して考えることができるようとした。また、子どもからの意見に対しても「集めたごみをどうしていたか。」のように問い合わせることにより、ごみ処理の仕事をもとに、より具体的に予想をすることができた。

### (イ) 板書について

出された予想を「どこの水か」「どんなことをしているか」「どのように届けているか」の3つの観点に分けて板書し、それぞれに「水の集め方」「水をきれいにする方法」「水の届け方」と名前をつけることにより、これから調べることについての見通しがもてるようにした。

また、「これらは誰がしていると思うか。」と問い合わせ、「工場の人」「地域の人」などの予想をいくつか出させた上で、3つの観点を「人々の取組」とまとめ、「人々の取組（仕事や協力）について調べていく。」という単元の学習の方向付けを行うことができた。

### (ウ) 資料について

前単元「ごみはどこへ」の授業で使った資料を壁面に掲示し、学習内容が想起できるようにした。また、単元導入で使用した資料（スライド）も本時のはじめに見せることで、「私たちの暮らしの中でたくさんの水を使っていること」を再確認した。

### (エ) 視点や立場の明確化

本時では「水道の仕事のどんなところに、手間をかけていそうか。」を予想することにより、「自分は特にこれを調べたい。」という、自分なりのこだわりをもつことができた。振り返りに「特に○○の仕事が大変だと思うから、調べたい。」と、今後の学習への思いを書いている子どももいた。今回は時間の都合上、ネームプレートなどで立場を示すことはしなかったが、拳手で確認したり、出てきた意見を板書上に色や印などで示したりし、立場をより明確にすることも検討していきたい。

## ② 考察

予想をたてる段階での判断場面は事例が少なく、どのような問い合わせを設定すれば無理なく子どもの意識がつながり、既習知識を根拠にして判断することができるかを何度も検討した。「どんなところに手間をかけていそうか。」を問うことにより、「働く人」の立場に立ち、仕事の工夫や努力に着目させ、これから調べていきたいという意欲を高めることができた。

中学年では、既習知識が少ないため、単元導入前からの日常的アプローチや、単元導入時に関心を高める資料を提示することや生活経験を十分に引き出しておくことが大切であることが分かった。また、考えを深めるために、教師が2つの小単元の関連を整理しておき、ゆきぶったり根拠を問い合わせたりすることができるようにしておくことが大切である。

子どもたちは「予想を自由に出すのは楽しい。」という意識をもつようになってきている。今後も、自分なりの考え（予想）をもつことのよさや大切さを実感させていきたい。

# 第4学年 社会科学習指導案

令和6年6月27日（木曜日） 5校時  
第4学年2組（34名） 指導者 松尾 佑哉

## 1 単元 水はどこから

### 2 単元の目標

- 水を供給する仕組みについて、聞き取り調査や資料を調べて集めた情報を県の白地図や図表などにまとめる活動を通して、水道事業は安全で安定的に水を供給できるように進めていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにする。
- 水を安定的に供給するための仕組みや人々の取組について、それらが果たす役割を考え、水をどのように使っていいかについて選択・判断する力を養う。
- 水の供給や使い方について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

### 3 単元について

#### (1) 子どもの実態と培いたい資質・能力について

本単元は、大単元「健康なくらしとまちづくり」の中における小単元「水はどこから」である。前単元ではごみ処理事業について学習し、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、ごみ処理事業が生活環境の維持と向上に役立っていることを理解してきた。そして本単元では、水を確保・供給するための施設や設備、水道事業に携わる人々の仕事について学習する。

給食前後の手洗いや、理科の学習で育てている植物への水やりなど、生活の中で子どもたちは毎日多くの水を利用している。しかし、手を洗う際に水を出しちゃなしにするなど、その大切さや便利さを意識できている子どもは少ない。同様に、普段私たちが利用している水の量や、水がどこからやってくるのかを理解できていないと考えられる。

本単元の学習を通して、限りある水資源を大切にするため、自分たちに何ができるのかを主体的に考えることができるようにしたい。

#### (2) 教材について

徳島市で水道が使えるようになったのは1926年からである。それまでは、川の水や湧き水を汲んで使ったり、井戸を掘って水を得たりしていた。しかし、徳島市民の健康や徳島市の発展のために、20年もの長い時間をかけて水道が作られ、今日に至っている。

飲料水が私たちのもとへ届くまでには、多くの過程を要する。ダムで蓄えられた川の水は浄水場に計画的に給水され、高度な技術を活用しながら多くの工程を経て浄水処理される。浄水場できれいになった水は、さらに配水場や配水池に給水され、配水管を通ってようやく私たちのもとに届く。

私たちがいつでも安心して飲料水を使えるよう、多くの事業や人々が連携・協力している。資料や副読本を活用しながら水道局の方からも話を聞き、これらのこと理解できるようにする。

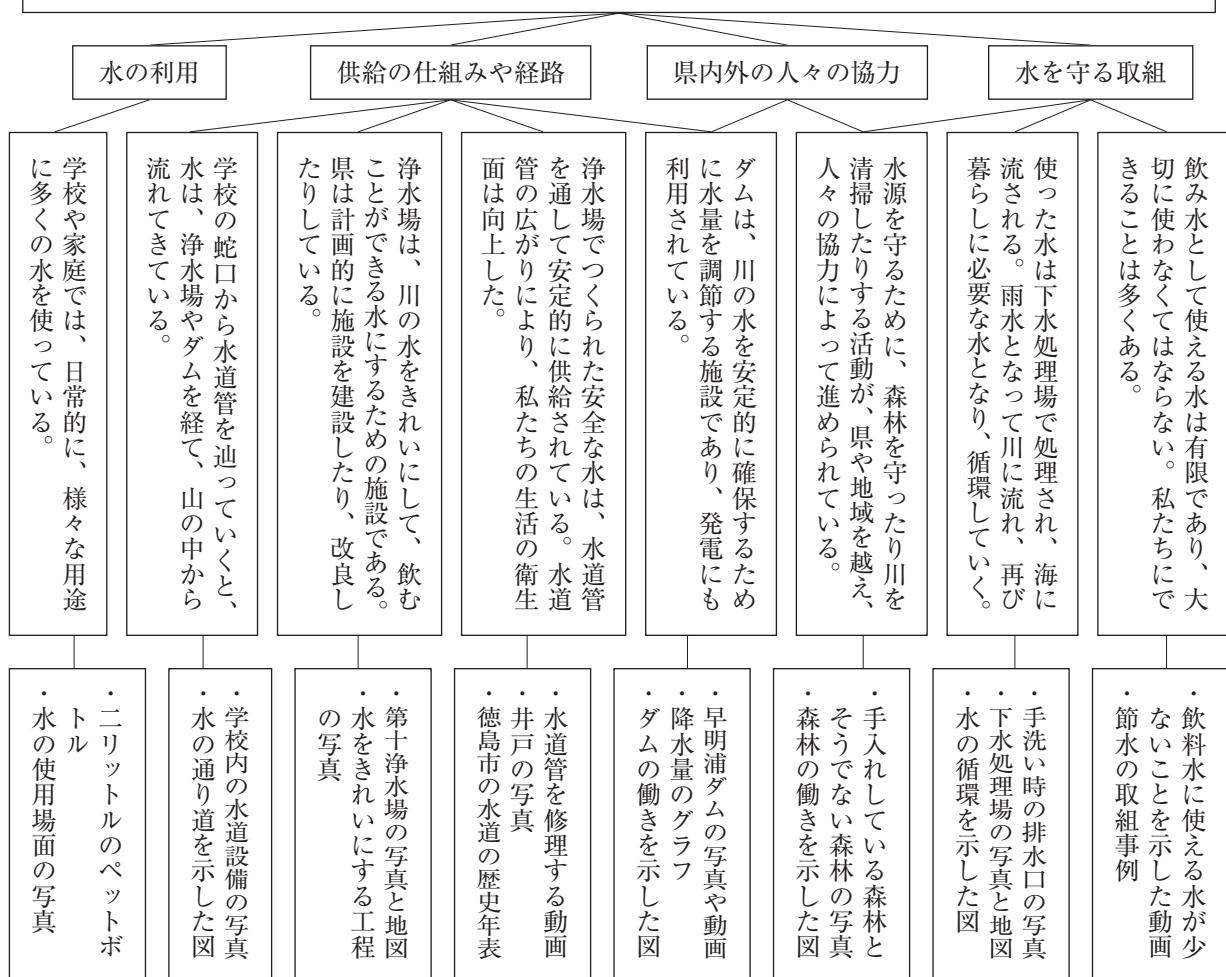
### (3) 単元の構想

〔学習指導要領との関連〕 第4学年 内容(2)

現代社会の仕組みや働きと人々の生活「経済・産業」「政治」

〔単元の学習問題〕わたしたちが生活中で使っている水は、どのようにして届けられるのだろうか。

〔中心概念〕暮らしに必要な飲料水を確保していくために、水道事業が広い地域の人々の協力と努力によって計画的に行われ、使った水は適切に処理されている。それによって、人々は健康で快適に暮らしていくことができる。



・飲料水の供給のための事業に見られる仕組みや人々の協力関係と、地域の人々の健康や生活環境を関連付けて、その事業が果たす役割を考える。

### (4) 子どもの意識がつながる単元構想について

単元導入前に、水道事業に関連のある図書を数冊置いておき、子どもたちが手に取ることができるようにしておく。また、理科の実験と関連付けて、水のろ過装置を作ったり、廊下に掲示された浄水場の写真に、自由にコメントを書けるようにしたりして、本単元への意欲を高める。

単元に入ってからは、一日の生活の中でどれくらい水を使っているかを振り返る。たくさんの水を使っていることに気付くとともに、ごみの学習と関連付けて、見通しをもちながら学習問題をつくっていく。学校の水道設備から浄水場、水道管からダム、そして森林と、水の通り道を辿りながら、それらが果たす役割を捉えるようにする。使った水はどこへいくかを問うことにより、下水処理場へ意識を向け、水が循環していることを理解できるようにする。

ひろげ深める段階では、水道局の方の話や、飲料水に使える水が少ないことを示した動画から、水が限られる大切な資源であることへの理解を深める。そして、水を大切に使うために自分たちに何ができるのかと、持続可能な社会への関わり方を考えることができるようとする。

#### 4 指導計画（全11時間）

段階	学習活動 ・子どもの反応	◇手だけで ◆判断を求める問い合わせ	評価
問題をつかむ	<p>(1) <b>1日に使う水の量を調べる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手を洗ったりトイレの水を流したり、いろいろな場面で水を使っているよ。</li> <li>・3年生の時に消防署について勉強したよ。火を消すときにもたくさん水を使っていたね。</li> <li>・こんなに水を使っていたなんて知らなかった。</li> <li>・水道の水ってどこから送られてくるのかな。</li> </ul> <p>(2) <b>疑問を出し合い、学習問題をつくる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも蛇口を捻ると水が出るけど、いつか水はなくならないのかな。</li> <li>・水道の水はどこからやってくるのかな。</li> <li>・どうやって水を飲めるようにしているのかな。</li> <li>・使った水はどこにいくのかな。</li> <li>・どんな仕事があるのかな。</li> </ul>	<p>◇1日の間に使っている水の量をペットボトルの本数に換算することにより、たくさんの水を使っていることを実感できるようにする。</p> <p>◇子どもたちから出た疑問を統合したり、グループに分けたりして整理することで、主体的に学習問題をつくることができるようにする。</p>	態①
た予想るを	(3) <b>予想を出し合い、学習計画を立てる。(本時)</b>	6 本時の学習を参照 ◆水の仕事のどんなところに手間をかけていそうか。 【判断（見通し）】	態①
き調べる方を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの処理と同じように、水をきれいにしたり送ったりする工場があると思う。</li> <li>・水をきれいにして飲めるようにする施設があると思う。</li> <li>・徳島県には吉野川や海があるよ。その水を使っていると思う。</li> <li>・水に関係のある仕事をしている人に、実際に話を聞いてみたい。</li> </ul>		
調べたししかめる	<p>(4) <b>水はどこから流れてくるのか調べる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島市にはいくつか配水場や配水池があるね。</li> <li>・徳島市内の配水管だけでも1100kmもあるらしい。徳島市から沖縄までなんてとても長いね。</li> <li>・どんどん辿っていくと、高知県の早明浦ダムまで繋がっているよ。</li> <li>・第十浄水場が水をきれいにする所なんだね。どんな所かな。</li> </ul> <p>(5) <b>浄水場の働きを調べる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川の水の中には、目に見えない汚れが混じっているらしい。</li> <li>・たくさんの工程を経て水がきれいになるんだね。</li> <li>・コンピュータで24時間管理しているんだね。</li> <li>・きれいにするだけじゃなくて、量を調節して計画的に水を送り出しているんだね。</li> </ul> <p>(6) <b>水道管を守る人々の働きを調べる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震が起こったり古くなったりすると、水道管が壊れてしまうらしい。</li> <li>・寒い冬にも修理をしないといけないなんて、水道管を取り換える工事って大変だね。</li> <li>・昔は井戸の水を汲んだり、湧き水を使ったりしていたらしいよ。水道管が整備されたおかげで、安心して水が使えるようになったんだね。</li> <li>・浄水場よりもさらに上流にあるダムにも、何か工夫があるのかな。</li> </ul>	<p>◇水道の経路を表した地図や資料を用い、水の供給経路を視覚的に捉えることができるようにする。</p> <p>◇浄水場での処理の工程を、資料とともに番号順に整理することにより、浄水場の役割を捉えることができるようにする。</p> <p>◇徳島市の水道の歴史年表を用いて、水道普及前後の様子を比較することにより、水道の普及が公衆衛生の向上に果たした役割を捉えることができるようする。</p>	知① 知① 知①

調べ べた しか める	(7) <u>ダムの働きを調べる。</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダムは雨がたくさん降る所に造られているんだね。</li> <li>・水を貯めたり、貯めた水を川に流したりして、水の量を調節しているんだね。</li> <li>・水のことだけじゃなくて、発電にもダムは役立っているみたい。</li> <li>・ダムと同じ働きを森林ももっているみたいだよ。どういうことだろう。</li> </ul>	◇ダム管理所のホームページにあるライブカメラの映像を用いることにより、ダムの様子を視覚的に捉えることができるようになる。	知①
	(8) <u>水源を守る取組を調べる。</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吉野川をどんどん辿っていくと、森林に辿り着いたね。</li> <li>・森林が雨を蓄えることで、水がゆっくり流れだすんだね。「緑のダム」というらしい。</li> <li>・森林は余分な木を切って日当たりをよくしないと、荒れてしまうそうだよ。</li> <li>・地域の人たちや会社などが協力しているおかげで、安全な水を使えるんだね。</li> </ul>	◇手入れされている森林とそうでない森林とを比較することにより、間伐などの手入れが森林の維持に必要であることを理解できるようになる。 ◆ダムを造ると森林が守られないが、それでもよいのだろうか。 【判断（深く分かる）】	知①
	(9) <u>使った後の水のゆくえを調べる。</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水をそのまま捨ててしまうと、川や海が汚れてしまうよ。きっときれいにしていると思う。</li> <li>・汚れた水は下水管を通って、下水処理施設に集められているんだね。</li> <li>・水が少し汚れるだけでも、魚が棲めなくなってしまうらしい。</li> <li>・川に流して終わりじゃなくて、雨になってまたぼくたちが使う水になるんだね。</li> </ul>	◇使った後の汚れた水がどこへいくか予想する場面を設けることにより、下水処理施設の働きや、水の循環に着目できるようになる。	知①
みんなで 考え 話し合 う	(10) <u>水の通り道をまとめる。</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水源からわたしたちのもとに届くまで、たくさんの工程があったね。その後も、水をきれいにしてから川に流していたよ。</li> <li>・水道局の人たちだけじゃなくて、地域の人たちも協力していたね。たくさんの人たちのおかげで、きれいな水を使っているよ。</li> <li>・水は大切だから、再利用しないといけないね。</li> <li>・ぼくたちにもできることははないのかな。</li> </ul>	◇水の流れをまとめ話し合うことにより、それぞれの場所が果たす役割を考えることができるようになる。 ◆水の通り道のなかで、特に大切だと考える働きはどれか。 【判断（深く分かる）】	知② 思①
ひろげ 深める	(11) <u>水を大切に使う方法を考える。</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飲み水に使える水って、こんなに少ないんだね。</li> <li>・学校でも家でも水をたくさん使っていたね。工夫したら減らせそうじゃないかな。</li> <li>・水を出しちゃなしにするのをやめると、使う量を減らせると思う。</li> <li>・水が大切なことをみんなに知らせるのもいいと思う。</li> </ul>	◇飲料水に使える水が少ないことが分かる資料を用いることにより、節水の大切さに気付き、水を大切に使う方法を主体的に考えることができるようになる。 ◆限りある水を大切にするために、私たちはどうすればいいか。 【判断（関わり方）】	態②

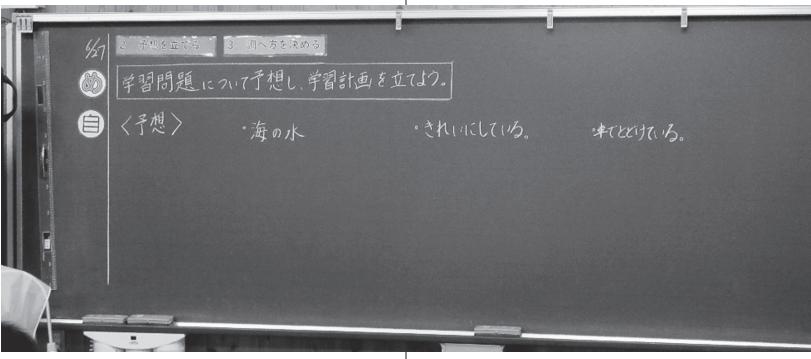
## 5 単元の評価規準

知識・技能	① 水道事業は、安全で安定的に飲料水を供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。 ② 飲料水を供給する事業について、聞き取り調査をしたり、地図や関係機関が作成した資料などで調べたりして、県の白地図や図表などにまとめている。
思考・判断・表現	① 供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水の供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現している。
主体的に学習に取り組む態度	① 飲料水を供給する仕組みについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 学習したこととともに、水を大切な資源としてとらえ、節水などに向けて、自分たちが協力できることなどを考えたり選択・判断したりするなど、水の有効利用に関心を高めようとしている。

## 6 本時の学習（3／11時間）

<b>本時のポイント</b>	前単元のごみの学習をもとに、見方や考え方を働かせ、大量の水をどのように供給しているかを予想し出し合う場面を設けることにより、これから調べることについて整理し、学習の計画を立てることができるか。	
<b>(1) 本時の目標</b>	自分たちが生活の中で使っている大量の水をどのようにして供給しているのかについて、ごみの学習をもとに根拠をもって予想することを通して、見通しをもって学習の計画を立てることができる。	
<b>(2) 本時の展開</b>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>子どもの意識の流れ</b></p> <p style="text-align: center;">(□…本時のめあて、□…子どもの意識、[ ]…主な問い合わせ、■…主な資料)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>一日の暮らしの中で大量に水を使っていることをもとに「わたしたちが生活の中で使っている水は、どのようにして届けられるのだろうか。」という学習問題を立てたね。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>学習問題について予想し、学習の計画を立てよう。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">どこからかな。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">どうしているのかな。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">どう送るのかな。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ダムで水を溜めているって、聞いたことがあるよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">そのままは使えないよ。きれいにしたり、塩を抜いたりしているんじゃないかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ごみを運ぶときのように、車に水を積んで送っているんじゃないかな。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">たくさんの中水が必要だから、川や海の水を使っているんじゃないかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">消毒しているんじゃないかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">水の工場からホースで送っているんじゃないかな。</div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>出てきた予想を分類するところからの学習を整理できそうだね。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">水の集め方について調べよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">水の処理について調べよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">水の送り方について調べよう。</div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>水の仕事のどんなところに手間をかけていそうかな。【判断】</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">いつでも水を使えるようにしていることに、手間をかけていると思う。ごみ処理もそうだったから。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ごみ処理に手間がかかっていたから、水をきれいにするのに手間がかかっているんじゃないかな。</div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>これらのことについて、どうやって調べるといいのかな。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">水を届けている人に話を聞いてみよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ごみの学習のときみたいに、本や地図帳で調べてみよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">インターネットや動画で調べてみよう。</div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>今日の学習を振り返って、自分の考えを書こう。</p> </div> </div> </div>	<b>学習活動</b> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>◇手だて</span> <span>◎評価</span> </div> <p>(～) 本時のポイントに関わる手だて</p> <div style="margin-top: 10px;"> <p><b>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</b> ⑤</p> <p>◇ 一日の水の使用量を振り返ることにより、学習問題について想起できるようにする。</p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p><b>2 本時のめあてを確認し、大量の水をどのようにして供給しているのか、ごみの学習をもとに予想する。</b> ⑯</p> <p>◇ 問い直しをしたり、「ごみの学習のときはどうだった」と問い合わせたりすることにより、学んだことや生活経験などをもとに、根拠をもって考えることができるようになる。</p> <p>◎ 飲料水を供給する仕組みについて、ごみの学習をもとに予想し、主体的に学習問題を追究しようとしている。</p> <p style="text-align: right;">【態①】(発言・ノート)</p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p><b>3 話し合ったことをもとに、学習計画を立て、調べ方を考える。</b> ⑯</p> <p>◇ 子どもから出た意見を分類することにより、これから学習で何を調べていくのか、方向付けることができるようになる。</p> <p>◇ 「水の仕事のどんなところに手間をかけていそうか。」と問い合わせることにより、ごみの仕事との関連を図るとともに、本時以降の学習への見通しをもつことができるようになる。</p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p><b>4 本時の学習を振り返り、考えたことを発表する。</b> ⑤</p> <p>◇ 振り返りの例を提示することにより、考えを焦点化して書くことができるようになる。</p> </div>

## 授業記録

教師の発問・支援	子どもの発言・反応
<p>○今週から水の学習を始めましたね。 1日の生活で、どのくらい水を使っていましたか。</p>	<p>・300L。</p>
<p>○300Lって聞いてどう思いましたか。</p>	<p>・多いなと思いました。</p>
<p>○このことから前回作った学習問題は。</p>	<p>・「わたしたちが生活の中で使っている水は、どのようにして届けられているのだろうか。」</p>
<p>○今日のめあては「学習問題について予想し、学習計画を立てよう。」です。ノートに書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>学習問題について予想し、学習計画を立てよう。</p> </div>	<p>(本時のめあてを書く。)</p>
<p>○今から学習問題について予想をしてもらいます。昨日のみんなの振り返りを読みました。どんなときでも、蛇口を捻ると水が出ますね。この水は何の水を使っていると思いますか。</p>	<p>・海の水をきれいにしていると思います。 ・水をろ過して送ってくるんだと思います。</p>
<p>○ごみの学習のときはどうでしたか。 集めたごみをどうしていましたか。</p>	<p>・運んで埋めたりしていました。</p>
<p>○ごみの学習のときのように、もしかしたら水も何か処理をしているのかもしれませんね。きれいにした水は、その後どうやって私たちのもとまで届くと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこの水</li> <li>・どんなことをしているか。</li> <li>・どのように届けているか。</li> </ul> <p>この3つについて予想してみましょう。生活の中で聞いたことや、ごみの学習を思い出して書いてみましょう。</p>	<p>(ノートに予想を書く。)</p>
<p>(机間指導しながら、子どもの予想を3つの観点ごとに1つだけ板書して例示する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海の水</li> <li>・きれいにしている。</li> <li>・車で届けている。</li> </ul>	
	

○それでは、予想を発表しましょう。

・川の水をろ過装置できれいにしていると思います。その後は分からないです。

○どうして、使われた水だと思いましたか。

・使われた水を装置できれいにして、下水道で届けている。

○他の意見はどうでしょうか。

・もう一度使えそうだから。

○海の水ってそのまま使えそう。

・似た意見ですが、水を消毒してから再利用していると思います。

○どうして工場だと思ったの。

・雨水に何か加えて、何度も検査していると思います。

○届け方についてはどうでしょうか。

・海の水を、清潔にして、車で届けていると思います。

○なるほど。みんな、水を運んでいる車を見たことあるかな。

・塩を抜いているんだと思います。

○どうやって運んでいるのでしょうか。他に意見はありますか。

・川の水を、工場でいろいろな方法できれいにしていると思います。

○みんなから出た意見をまとめてみましたが、それぞれどんな名前をつければ、分かりやすいでしょうか。

・ごみのときも、工場でごみをきれいにしていたからです。

○一番左は何にしますか。

・タンクにためる。

○真ん中は。

・水道会社に運ばれて、その会社が地下のパイプに水を送っていると思います。

○一番右は。

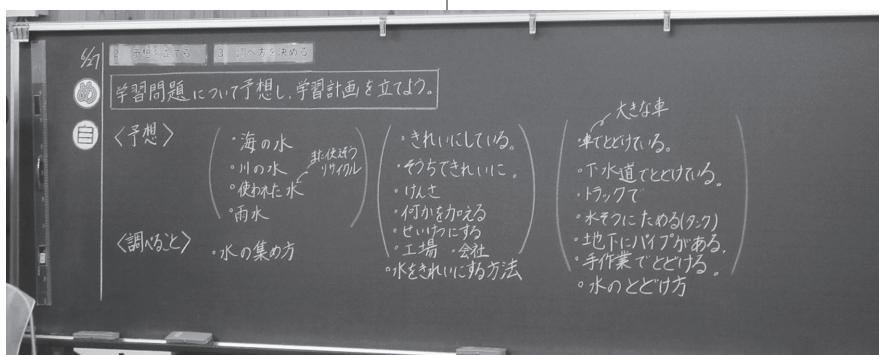
・ないです。

・手で運んでいると思う。

・水の集め方

・水をきれいにする方法

・水の届け方

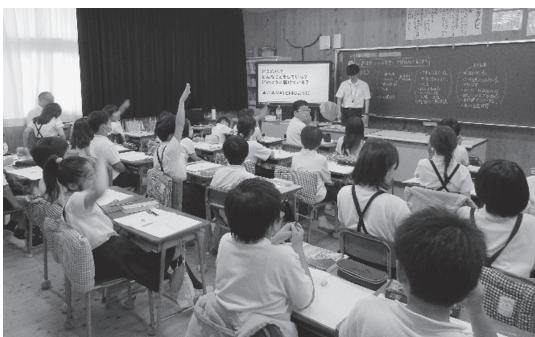


○この3つのこと調べていこうと思うけど、これらのことは誰がしているんだと思いますか。

○人の取組も調べるとよさそうですね。これからは「人々の取組」についても調べていこうと思います。

○実はこの勉強ってごみのこととも密接に関わっています。ごみの仕事のときも大きな手間がかかっていたところがあると思います。この水の学習では、どこに手間がかかっていると思いますか。隣の人と相談してみましょう。

○発表しましょう。



○たくさん予想がありますが、これを確かめるために調べていきます。どんな方法で調べますか。

○今日の学習では予想から、調べる方法を考えることができたので、これをもとに進めていきたいと思います。

○では、ここまで学習を振り返ろうと思います。  
振り返りを書きましょう。  
(モニターに振り返りの観点を表示する。)

○発表してください。

○これからは、まず水の集め方から調べていこうと思います。

○では、終わりましょう。

- ・工場の人
- ・水に詳しい人
- ・地域の人もあるかも。

(2人1組のペアになって相談する。)

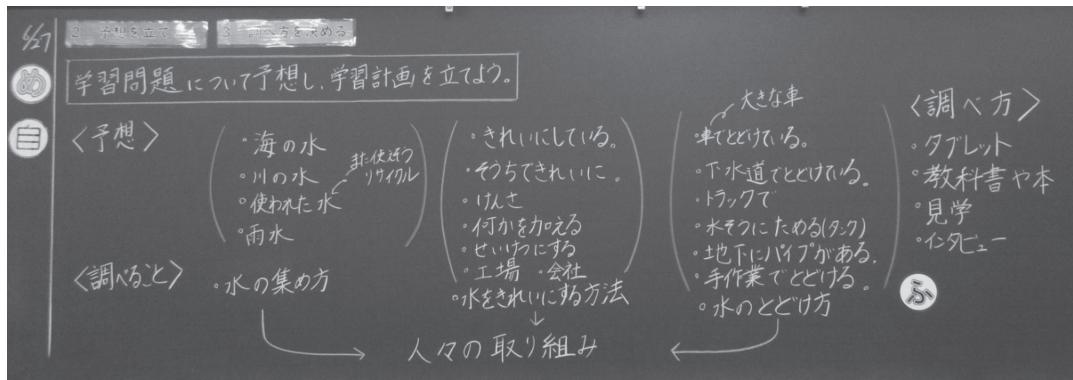
- ・水をきれいにする方法が手間だと思います。工場できれいにしたとしても、最後は自分でチェックしないといけないから。
- ・水をきれいにする方法が手間だと思います。何度も作業をしないといけないから。
- ・水を集めめる方法が手間だと思います。海や川からとってくるのは大変だからです。
- ・水をきれいにする方法だと思います。泡できれいにできないし、見えないものをきれいにしないといけないからです。

- ・タブレット
- ・教科書
- ・見学やインタビュー
- ・図書室や教室の本

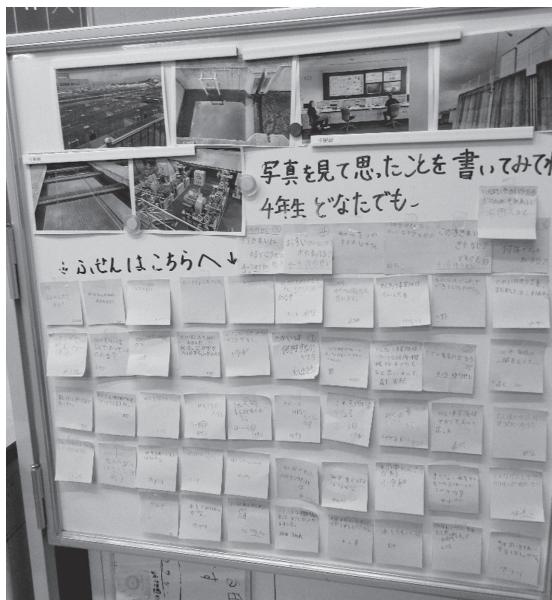
(振り返りをノートに書く。)

- ・初めは分からぬことがいっぱいあったけど、まだ分からぬところがあるので調べてみたいです。
- ・友達の意見でいいなと思うところがありました。また、それに自分も納得しました。
- ・水のことについてマスターしていないので、まずは水の集め方から勉強していきたいと思いました。

## 板書



## 書籍・掲示物



## 本時までの資料

どんな場面で水を使っているのかな?



流しっぱなしの場合

歯磨き (30秒間)  
洗面・手洗い (1分間)  
シャワー (3分間)  
食器洗い (5分間)

1回の利用に使う水の量は

6L	トイレ (小)	3.5L
12L	トイレ (大)	4L
36L	せんたく	120L
60L	おふろ	200L

1日に使う水の量を調べよう

徳島県ホームページ (2014年) によると…

# 300L

といわれている。

1日に使う水の量を調べよう

2Lのペットボトルが



松尾先生の場合 (一人暮らし)

$9\text{m}^3 = 9000\text{L}$  (2か月分)  
だから1か月分は4500L

1か月はだいたい30日だから  
1日は150L

### (3) 第5学年 単元名「くらしと産業を変える情報通信技術」

#### ① 指導の実際

##### ア 単元構想と振り返りの工夫

本単元では、地域教材として運輸業を取り上げて教材開発を行った。校区内にある宅配便の営業所への見学の時間を設け、運輸業における情報や情報通信技術（ICT）の活用について、実際に機械を見たり働く人の話を聞いたりできるように単元構想を練った。

「問題をつかむ」「予想をたてる」段階では、運輸業はどのようにICTを活用しているのかについて、昔（1987年ごろ）の配達の様子の資料と比較しながら予想できるようにした。以前は手作業が多い様子を見せるなどで、「昔は伝票の整理が大変そう。」「今は機械ですぐに整理できそう。」「配達するときもICTを使って早く届けられていると思う。」「見学に行って確かめたい。」と後の学習活動に意識をつなげる姿が見られた。

「調べ確かめる」段階では、本時で扱う取組や運輸業における社会的な課題を各時間の中に意図的に配置した。特に営業所の見学では、実際のICTの活用の様子やその利点、再配達などの課題について話をしていただき、これから学習につなげることができるようにした。

また、本単元が始まると、宅配の様子についての絵本を用いて読み聞かせを行ったり、家庭科「生活を支える物やお金」では店舗販売とネット販売について扱い、それぞれの買い物のよさや支払いの違いなどに触れたりした。このように、日常的アプローチとして、他教科と関連付けながら、学びを進められるようにした。

振り返りを書く場面では、視点を明確に提示することにより、「学習して分かったこと」と「次の時間に調べたいこと」を書くことができるようとした。これらの振り返りを各時間の最後や次時のはじめに発表させることにより、互いにどのような考えをもち、どのように学習を振り返ったかを共有できるようにした。本時では、「学習して分かったこと」か「これから運輸業やわたしたちの生活について考えたこと」のどちらかを選んで書くことができるようとした。学習したことや考えたことを自分の言葉でまとめたり、これから生活に生かそうとしたりする姿が見られた。

これから生活で再配達をへすために、お母さんに配達通知サービス  
や宅配ロッカーを使うように言おうと思います！

今日の学習で分かったことは荷物を届ける数は毎年増えている。  
ドライバーの手不足を助けるためにAIのロボットを使つて  
自動で届けたり、いそがしい人なども自分の予定で受けとる日時  
を教えてもらからだれもが便利になつた。

##### 本時の振り返り

##### イ 認識と判断

本単元では、深く分かることにつながる判断場面を単元末に設定した。「より効率よく、大量の荷物を届けるために、ICTを使ったどの取組に、力を入れていけばよいか。」と問い合わせ、これまで学習してきたことを根拠に考えた。「宅配ロッカー」「AIによるルートのおすすめ」「配達通知サービス」の3つの取組から選択し、それぞれの考えを発表した。「配達通知サービスは、資料にもあるように、届く前に変更すると再配達が減るからいいと思う。」のように、自分が選んだ取組と既習内容を結び付けながら根拠をもって話し合う姿が見られた。

また、判断場面に切実感をもたせるために、運輸業の社会的な課題を扱った。宅配個数が増加してい

るグラフとドライバーの数は変わっていないグラフを提示した。これからも宅配個数は増えるが、ドライバーの数は変わらないという課題を確認し、ICTを活用することにより、さらに効率よく大量の荷物を届ける必要があることに焦点をあて、判断ができるようにした。

## ウ 考えを深める手立て

### (ア) 発問について

力を入れるべき取組について考えを共有した上で、「より効率よく届けられるようになると助かるのはドライバーだけか。」と発問すると、「利用者も助かる。」という意見が出た。そこで、「どんな利用者が助かるのかな。」という切り返しの発問をすることにより、忙しい人、病気の人、障がいがある人、妊婦さんなどとそれぞれの立場にたって、多角的に考えることができた。また、「どの取組がそれぞれの利用者にとってよいのか。」と発問することにより、それぞれに応じたICTを活用した取組が必要であることに気付く姿が見られた。

### (イ) 資料について

本单元で扱う資料は、タブレット端末を用いて毎時間配付した。また、本時までの授業で使用してきた資料を教室背面に掲示したり、冊子にまとめて子どもに配付したりした。既習内容を確認し、自分の考えをまとめたり、考えの根拠を見つけたり、考えを共有したりする際に効果的であった。どの資料を用いるかを子どもが選べるようにすることで、自分に合った方法で資料を調べ、根拠をもって発言することができていた。

## ② 考察

本单元では地域教材を扱い、見学に行き、実際に話を聞いたからこそ、運輸業の課題を解決するためのICTを活用した取組を選択し、自分なりの理由を考えることができた。しかし、課題と自分たちとの関わりが弱く、切実感があまりなかった。実際に話を聞いて働く人の気持ちや思い、感情を何度も取り上げて学習を進めることができれば、より切実感をもって考えることができたのではないかと感じた。また、考えをもつ場面で、資料から根拠を探すことはできていたが、資料をただ書き写すだけになってしまふ子どもも見られた。資料を書き写すのではなく、資料を根拠に自分の考えをもつための手立てが必要だと考える。立場を明確にすることで考えをもつことはできていた。しかし、一方で話し合いの場面では、自分の考えを相手に伝えるだけになってしまった。同じ立場同士で考える場を設けていれば、自分の考えに自信をもって発表したり、立場同士の対立や他の立場への積極的な質問が生じたりとより話し合いが活発になり、議論となって課題に対して深く考えることができたと考える。

判断場面をより効果的にするためには、判断ができる問い合わせに切実感をもたせる必要がある。子どもたちが判断する問い合わせが、より深いものであればあるほど、多くの知識と認識が求められ、多くの資料を扱わなければならないと考える。しかし、子どもたちに必要以上の負荷がかからないように配慮することが求められる。そのため、判断場面を設定する際、資料を精選したり、決められた単元の時数や根拠となる学習内容を考慮したりする必要があると感じた。判断場面をより効果的に設定する方策を追究していきたい。

# 第5学年 社会科学習指導案

令和7年1月23日（木曜日） 5校時  
第5学年3組（25名） 指導者 前川 勇太

## 1 単元 くらしと産業を変える情報通信技術

### 2 単元の目標

- 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解するとともに、聞き取り調査や写真、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割や情報化の進展に伴う産業の発展・国民生活の向上について多角的に考える力や考えたことを説明したりそれらを基に議論したりする力を養う。
- 情報や情報技術の活用による産業の発展と国民生活の変化について、主体的に学習問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い、我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

### 3 単元について

#### （1）子どもの実態と培いたい資質・能力について

前単元「情報を伝える人々とわたしたち」では、放送局の人々が情報を集め発信するまでの工夫や努力について学んできた。また、マスメディアの情報が自分たちの生活に及ぼす影響について考え、情報の影響力の大きさやそれに伴う責任の重さについても理解できている。

本単元では、情報や情報通信技術を活用する産業について調べたことを図にまとめることを通して、我が国の産業と情報には密接な関わりがあり、大量の情報や情報通信技術の活用が様々な産業を発展させ、国民の生活を向上させていることを理解できるようにする。さらにはこれから的情報通信技術の活用による産業の発展について、学習したことを根拠に話し合うことにより、多角的な視点をもって深く考える力を培いたい。

#### （2）教材について

沖洲地区にはマリンピア沖洲（産業団地）があり、毎日大きなトラックが多くの荷物を運ぶために行き来している。令和4年には徳島南部自動車道が開通し、流通網はより大きく広がり物流の拠点としての役割を担っている。

本単元では、運輸業を取り上げる。校区内にある宅配便の営業所に見学に行き、運輸業における情報や情報通信技術の活用について、聞き取ったことや資料を用いて図にまとめる活動を通して、運輸業は情報や情報通信技術を活用することで発展してきたこと、それに伴い国民生活が向上していることを理解できるようにする。また、社会的な課題に対して、これから的情報や情報通信技術の活用について話し合い、多角的に考えることを通して、これからも情報や情報通信技術を活用した産業が発展し、国民生活がより向上していくことをつかむことができるよう学習を進めていきたい。

### (3) 単元の構想

## 〔学習指導要領との関連〕 第5学年 内容(4)

## 現代社会の仕組みや働きと人々の生活「経済・産業」「政治」

〔单元の学習問題〕商品や荷物を届ける人たちは、どのように情報通信技術を使っているのだろう。

〔中心概念〕情報や情報通信技術を活用することにより、大量の情報を収集、管理、分析できるようになり、運輸業が発展し、国民生活も向上している。これからその技術をどのように産業が生かしていくべきかを考える必要がある。



- ・情報を活用した産業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付けて、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考える。

#### (4) 子どもの意識がつながる単元構想について

本単元では、子どもの生活経験にもあるネット販売の場面を取り上げ、家に居ながら買い物ができ、商品がすぐに届く仕組みに着目できるようにする。「誰が商品を届けてくれているのか。」と問い合わせることにより、ネット販売の仕組みにおける運輸業に着目し、運輸業はどのように情報通信技術を活用しているのかについて、昔（1987年ごろ）の配達の様子の資料と比較しながら予想することができるようになる。宅配便の営業所への見学や映像、資料を基に学習を進めていくとともに、情報や情報通信技術の活用について図にまとめていく中で、情報や情報通信技術の活用が産業を発展させ、国民生活も向上させていることを理解できるようになる。その際、情報を活用していく中で適切な情報を見極めることや、個人情報の取り扱いに気を付けなければならないことにも意識を向けることができるようになる。

「ひろげ深める」場面では、学習したことを根拠として情報化の進展に伴うこれから運輸業の取組について考えることができるようになる。根拠を基にして、自分の意見をまとめ話し合うを通して、情報化の進展に伴うこれから産業の発展や国民生活の向上について、多角的に考えることができるように学習をつなげていきたい。

#### 4 指導計画（全8時間）

段階	学習活動 ・子どもの反応	◇手だけで ◆判断を求める問い	評価
問題をつかむ	<p>(1) <u>インターネットで商品を購入するとすぐに商品が届く場面について、気付きや疑問を出し合う。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活場面で情報通信技術が使われているね。</li> <li>・ネットで商品を買うとすぐに商品が届いたよ。</li> <li>・どんな仕組みで商品が届くのかな。</li> </ul>	◇店舗販売とネット販売を比較することにより、買い物でも情報通信技術が活用されていることに気付くことができるようになる。	態①
	<p>(2) <u>ネット販売のしくみについて調べ、学習問題をつくる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注文を受けると、物流センターから商品を発送しているよ。</li> <li>・販売業者と配達業者が連携しているよ。</li> <li>・速く商品が届くのは情報でやりとりしているからだと思う。</li> <li>・配達する人たちは情報通信技術をどのように使っているのかな。</li> </ul>	◇ネット販売の仕組みを図にまとめ、「誰が・どのように商品を届けてくれているのか。」と問うことにより、運輸業における情報通信技術の活用について調べたいという意欲を高めることができるようになる。	思①
たてる予想をする	<p>(3) <u>予想を出し合い、学習計画をたてる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔は配達に時間や手間がかかりそうだよ。</li> <li>・ほとんど手作業で仕分けをして大変そうだ。</li> <li>・配達伝票には、どんな情報が使われているのかな。</li> <li>・情報通信技術のおかげで、速く荷物が届いていると思う。</li> <li>・配達のミスや手間もなくなっていると思うな。</li> <li>・宅配便営業所に見学に行って確かめてみたいな。</li> </ul>	◇昔の配達の様子の資料を提示することにより、学習問題について予想することができるようになる。	態①
きめ調べる方を			
調べたしかめる	<p>(4) <u>宅配便の営業所に行き、情報通信技術を活用した宅配の仕組みについて話を聞いたり見学をしたりする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の情報を使って配達しているよ。</li> <li>・荷物の仕分けは人がしているね。</li> <li>・仕分けを自動である場所もあるみたい。</li> <li>・機械で何か読み取って、伝票を作っているよ。</li> <li>・ドライバーさんが持っている携帯端末で読み取っているよ。</li> <li>・情報通信技術をどのように活用しているのかな。</li> </ul>	◇調べる内容を確認し、宅配便の営業所に見学に行き話を聞くことにより、荷物が配達される仕組みや、情報通信技術の活用の様子を理解できるようになる。	知①

調べたし かめる	<p>(5) <u>情報通信技術が配送にどのように活用されているかを調べる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住所が地図上に示されて正確に配達できるね。</li> <li>・荷物の仕分けは伝票番号で振り分けて機械で読み取っているよ。</li> <li>・宅配ロッカーを使うと、家以外にも配達できるよ。</li> <li>・配達通知サービスを使うと、すぐに配達状況などを利用者と共有できるね。</li> <li>・集まった情報は何かに使われているのかな。</li> </ul>	<p>◇営業所の方の話と情報通信技術を活用した配送の資料を提示することにより、配送の中で情報通信技術がどこで使われているかが理解できるようになる。</p>	知①
みんなで 考え方 話し合う	<p>(6) <u>運輸業で働く人は、集めたデータをどのように活用しているのかを調べる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AIを使ってたくさんの配送データから効率よく配達できるルートを導き出しているよ。</li> <li>・効率よく配達できると、速く、正確に荷物を届けることができるね。</li> <li>・天気や交通情報も使ってルートを作っているね。</li> <li>・個人情報の流出など不安なこともあるよ。</li> <li>・運輸業は情報通信技術をどのように活用してきたのかな。</li> </ul>	<p>◇集めた情報を基に配送ルートを作成し配達に活用している資料を提示することにより、ドライバーは効率よく配達することができ、速く、正確に荷物を届けることができるこれが理解できるようになる。</p>	知①
みんなで 考え方 話し合う	<p>(7) <u>運輸業における情報通信技術の活用について関係図にまとめ、情報通信技術の活用と運輸業の発展や国民生活の向上とのつながりについて話し合う。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信技術を活用することで、運輸業は発展してきたね。</li> <li>・運輸業の発展のおかげで、わたしたちの生活はよくなっているね。</li> <li>・これから運輸業はどのように発展していくのかな。</li> </ul>	<p>◇情報通信技術の活用について調べたことを関係図にまとめることにより、情報通信技術の活用によって産業は発展し、わたしたちの生活は向上していることが理解できるようになる。</p>	知② 態②
ひろげ深める	<p>(8) <u>より効率よく、大量の荷物を届けるために、情報通信技術を使ったどの取組に力を入れていけばよいかについて話し合う。(本時)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け取る方法が増えればいいと思う。</li> <li>・効率よく配達できればたくさん配達できるよ。</li> <li>・ドライバーさんと利用者のやりとりがもっと速くできれば配達しやすいと思うよ。</li> <li>・これからも情報化はさらに進んで、運輸業や私たちの生活ももっと便利になっていきそうだね。</li> </ul>	<p>◇これまでの学習を振り返ることにより、学習したことを根拠に考えをもつことができるようになる。</p> <p>◆より効率よく大量の荷物を届けるために、どの取組に力を入れていけばよいか。</p> <p style="text-align: right;">【判断（深く分かる）】</p>	思②

## 5 単元の評価規準

知識・技能	<p>① 情報の種類、活用の仕方などについて聞き取り調査をしたり写真や統計などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、販売などの産業における情報活用の現状を理解している。</p> <p>② 調べたことを文や表などにまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。</p>
思考・判断・表現	<p>① 情報の種類、活用の仕方などに着目して、問い合わせをして、運輸などの産業における情報活用の現状について考え表現している。</p> <p>② 運輸などの産業における情報活用の様子を統合して、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考えたり、学習したことをもとに、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について産業と国民の立場から多角的に考えたりして、適切に表現している。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>① 情報や情報技術の活用による産業と国民生活の変化について、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>② 学習したことをもとに、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について産業と国民の立場から多角的に考えようとしている。</p>

## 6 本時の学習（8／8時間）

本時のポイント	<p>今後、力を入れるべき取組を選び、根拠や理由を明確にしながら話し合う場を設けることにより、情報化の進展に伴うこれからの運輸業の発展や国民生活の向上について考えができるようになるか。</p>		
<p><b>(1) 本時の目標</b></p> <p>今まで学習してきたことを根拠に話し合うことを通して、情報化の進展に伴うこれからの運輸業の発展や国民生活の向上について、多角的に考え、表現することができる。</p> <p><b>(2) 本時の展開</b></p>		<p><b>子どもの意識の流れ</b>            (□…本時のめあて、□…子どもの意識、[ ]…主な問い合わせ、■…主な資料)</p> <p>■前時に作成した関係図</p> <p>どの情報が途絶えても、不便になるね。            情報を活かすことで便利になったんだね。でも、こんな課題があるよ。</p> <p>■宅配取扱個数の推移のグラフ ■ドライバーの数の変化のグラフ</p> <p>宅配個数がこんなに増えて、ドライバーさんは大変だね。</p> <p>ドライバーさんは、どんなことに情報通信技術を活用していたかな。</p> <p>宅配ロッカーを使うときには二次元コードを使っていましたね。</p> <p>A Iを使って効率よいルートを作っていましたよ。</p> <p>配達通知サービスを使って、利用者とやりとりしていましたよ。</p> <p>宅配個数はこれからも増えていくかもしれないね。ドライバーさんはたくさんの荷物を効率よく配達しないといけないから大変だよ。</p> <p><b>【判断を求める問い合わせ】</b>            より効率よく、大量の荷物を届けるために、ICTを使ったどの取組に、力を入れていけばよいかを考えよう。</p> <p>宅配ロッカー A Iによるルートのおすすめ 配達通知サービス</p> <p>・宅配ロッカーの利用が増えれば、一ヵ所に行くだけで、たくさんの荷物を届けられるよ。            ・再配達を減らせるからいいと思う。</p> <p>・A Iを使えば、ルートや配車も効率よくでき、たくさんの荷物を届けられると思う。            ・配達する時間を短くできるね。</p> <p>・いつ、どこに届くかを知らせると、確実に荷物を届けられるね。            ・受け取る日時や場所の変更がすぐにわかると、再配達がさらに減らせるね。</p> <p>それぞれの取組に力を入れて助かるのはドライバーさんだけかな。</p> <p>・より速く、確実に荷物を受け取れるから、利用者にとってもよくなると思う。            ・ドライバーさんと利用者どちらにとってもよいことがあるね。</p> <p>実は、情報通信技術は今も進化していて、無人自動配達ロボットやドローンによる配送も実験されているよ。</p> <p>■無人配達ロボット・ドローン配達の写真</p> <p>これまで情報通信技術を活用して、運輸業や私たちの生活はよくなってきたけれど、さらによくなる可能性がありそうだね。</p>	
		<p><b>学習活動</b> ◇手だて ◎評価            (～) 本時のポイントに関わる手だて</p> <p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。⑤            ◇ 宅配個数の推移のグラフや関係図を提示し、ドライバーが活用する情報通信技術に着目させることにより、本時のめあてをつかむことができるようする。</p> <p>2 これから進めていけばよいと思う取組について個人で考える。⑦            ◇ ワークシートに理由と根拠を書く欄を設けることにより、自分の考えを整理できるようする。            ◇ 関係図の中から3つの取組に着目して提示することにより、明確に選択・判断することができるようする。</p> <p>3 2で考えたことをもとにしてグループや全体で話し合う。⑯            ◇ 黒板にネームプレートを貼ることにより、立場を明確にして、考えを表現することができるようする。            ◇ 資料の掲示をしておくことにより、根拠を示しながら話し合いができるようする。            ◇ 「助かるのはドライバーさんだけか。」と問うことにより、情報化の進展について、運輸業以外の立場にも着目して考えることができるようする。            ◇ 運輸業の新たな取組を提示することにより、運輸業は情報化の進展に伴い、さらに発展していくことをつかむことができるようする。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。⑧            ◇ 振り返る観点を示すことにより、自分の考えの広がりや深まりに気付くことができるようする。            ◇ 情報化の進展に伴うこれからの運輸業の発展や国民生活の向上について、多角的に考えて表現している。            【思②】(ワークシート)</p>	

## 授業記録

教師の発問・支援	子どもの発言・反応
<p>○前の時間の振り返りを発表してもらうよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運送業の人はICTを活用して産業を発展させている。</li> </ul>
<p>○ICTはなくてはならないものになってきていると思います。便利になればなるほど、みんなが今習っている宅配の量はどうなったと思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運輸業の人は手作業で時間がかかっていたが、今は色々な機械があって便利で、これからも必要だと思いました。</li> </ul>
<p>○増えてきそうですね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くなってきている。</li> </ul>
<p>○1987年は約5億個。</p> <p>これはヤマトさんだけでなくて日本全体ね。</p> <p>これが今は、50億個も取り扱っている。</p> <p>それぐらい便利になってきています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50億個…</li> </ul>
<p>○ここ10年間だけのグラフを見てみても…</p> <p>増えてきているよね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・増えてきている。</li> </ul>
<p>○じゃあこれを配っているドライバーさんの数はどうなっているかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんまり変わってないよ。</li> </ul>
<p>○ドライバーさんは、こんなことを言っていたね。</p> <p>何が大変って言っていたかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再配達です。</li> </ul>
<p>○荷物はたくさん増えていくし、再配達もある。</p> <p>ドライバーさんの数はどうなっているのかな。</p> <p>変わらないかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変わらないと思う。</li> </ul>
<p>○みんなが習ってきた配達。効率よく運んでいかないといけないということやな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配達通知サービスです。</li> </ul>
<p>○学習してきた中で、効率よく配達をするためにどうやってICTを活用してきたのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルートをAIを使って探しています。</li> </ul>
<p>○昨日、関係図にも整理しましたね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅配ロッカーかな。</li> </ul>
<p>○この3つのうちどの取組に力を入れていけばいいと思う。たくさん荷物は増えていくけれど、ドライバーさんの数は変わらない。もっと効率よく運ぶためにはどれだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AIかな。</li> </ul>
<p>○今日は、どれを頑張って力を入れればいいのかを話し合っていきたいと思います。</p>	
<p>めあては</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>より効率よく、大量に荷物を届けるために、ICTを使ったどの取組に力を入れていけばよいか考えよう。</p> </div>	
<p>○より効率よくドライバーさんが届けられるようにするために、どうすればいいのか考えましょう。</p>	
<p>○大量の荷物を届けるためには、どれに力を入れ</p>	

ればいいのか丸をつけてください。選んだ理由を下に書いてください。もちろんタブレット、紙の資料を使っても構いません。後ろにも掲示しています。番号も忘れずに書いてください。時間は、5分でいこうと思います。

○選んだものにネームプレートを貼りに来てください。

○では、班で自分の意見を伝えてもらいます。そのときですが、資料の番号と自分の選んだものと、その理由を言ってください。

○班で話したことと同じでもOKです。

○考えが変わった人は、変わった考えでも構いません。自分の考えを教えてください。



○だれが受け取るのでしたか。

じゃあ届ける人はそれで何が得するの。

○無駄な時間を減らせるんだね。

○「AIによるルートのおすすめ」はどうですか。

○無駄のないルートを作成するとどうなるの。

○時間通りに届けられるし、二酸化炭素も減るよね。



- ・「宅配ロッカー」で資料番号は12と16です。家以外でも確実に荷物を受け取ることができて、少し時間がたっていても荷物をもらえるから再配達を減らすことができる。だから、次の荷物を運ぶことができていいんじゃないかなと思いました。

- ・家にいなくても、その場所に行けば荷物を確実に受け取れるから、再配達しなくてもいいと思ったからです。

- ・家以外で荷物を受け取ることができるから、再配達が減ると思いました。資料番号は12番です。

- ・二次元コードやパスワードを打ち込んだら荷物を取ることができるのがいいです。

- ・利用者

- ・再配達が減るから無駄な時間がなくなる。

- ・配達する量が増えてきたから、AIでより効率的なルートを作成してより多くの荷物を運ぶことができるからです。

- ・より多くの量を配達できる。

- ・無駄のないルートを作成すると早く運べるからたくさんの荷物を届けられるようになる。

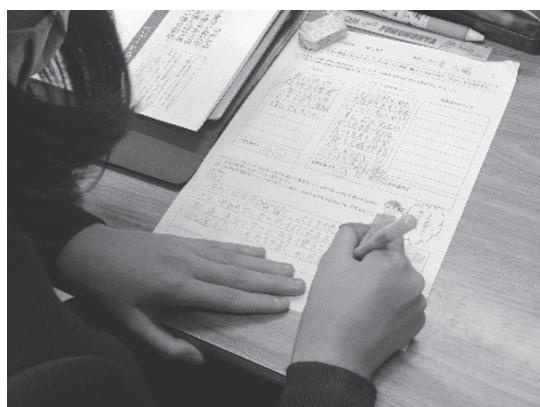
- ・AIを使うと最短距離を教えてくれる。時間通りに届けられる。二酸化炭素の排出量が少なくなる。

<p>○運ぶのが楽になるとドライバーさんはうれしいよな。</p> <p>○「配達通知のサービス」はどうですか。</p> <p>○届く前に変更できたらドライバーさんはどう効率よく運べそうかな。</p> <p>○自分の予定で変えられるのは誰ですか。</p> <p>○そしたらどんないいことが起こるのかな。</p> <p>○友達の意見を聞いて、これもいいなっていうのを思いついた人はいませんか。</p> <p>○今、たくさん理由を考えてくれました。「宅配ロッカー」、「AIによるルートのおすすめ」、「配達通知サービス」のことなど。これらの取組を進めていったらより効率よく届けられそうですか。</p> <p>○さっきのグラフにもあったように、大量の荷物をどんどん配ることもでき、再配達の量もどんどん減っていってドライバーさんにとって良くなりそうですね。</p> <p>○良くなるのは、ドライバーさんだけかな。</p> <p>○どんな利用者が助かるかな。</p> <p>○それは、ネット販売とは違うのかな。</p> <p>○ちなみに病気の人ならどの取組が助かるのかな。</p> <p>○じゃあ忙しい人は。</p> <p>○妊婦さんならどうですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無駄のないルートを作成できたら、ドライバーさんにとっても楽だし、運びやすくなると思う。</li> <li>・荷物が届く前に配達時間を変えたりや荷物を受け取る場所を変更することができます。</li> <li>・再配達がなくなる。</li> <li>・受け取り日時の変更が届く前にできるから、受け取る人が確実に受け取ることができる。</li> <li>・配達の前に知らせが来るから自分の予定で変えることができる。</li> <li>・利用者です。</li> <li>・再配達が減るので、ドライバーさんの負担が減ります。</li> <li>・利用者の人も</li> <li>・注文する利用者</li> <li>・病人</li> <li>・ネット販売を使う人</li> <li>・忙しい人</li> <li>・どこかにいかなくても、お金を払えば届けてくれるから。</li> <li>・障がいがある人</li> <li>・用事がたくさんある人</li> <li>・妊婦さん</li> <li>・配達サービス、宅配ロッカー</li> <li>・忙しいから、いつ取りにいくか自分で決められるから助かると思います。</li> <li>・妊婦さんは動きにくいから、速く配達してもらった方が…。</li> </ul>
--	--

- 利用者の中にもいろいろな人がいますね。  
皆さんは利用者ですか。  
これから、利用者になるかもしれません。
- ICTに力を入れていけばもちろん、ドライバーさんも良くなるんだけれど、利用者にとってもいいことになることが分かったと思います。
- 実は、ICTは今どんどん発展していて、ヤマトさんに見学に行ったときにも話してくれましたね。
- 覚えていますか。資料も見せてもらったけれど、無人自動配送ロボット。
- もう一つあってね、ドローン配送で複数の荷物を運ぶことにも取り組んでいます。
- 動画がありますので、見てみましょう。
- どうでしたか。思っていた感じでしたか。話は聞いていたけれど、実際の映像を見てみると感じ方が変わったかもしれません。将来は、もしかしたらロボットが配送することになるかもしれません。
- 昔の配達は、こんな感じでした。人が配達することが多かった配達が、今やこういうロボットやドローンを使って運輸業をしていることがよく分かったと思います。
- ワークシートに振り返りを書きましょう。  
1番か2番どちらかにして書いてみましょう。
- 振り返りを紹介してください。
- ICTがどんどん使われていくのは、ニュースなどで、これからも取り上げられると思いますので「あっ、ロボット。」「あっ、ドローンが活躍してる。」のようにチェックしてみてください。

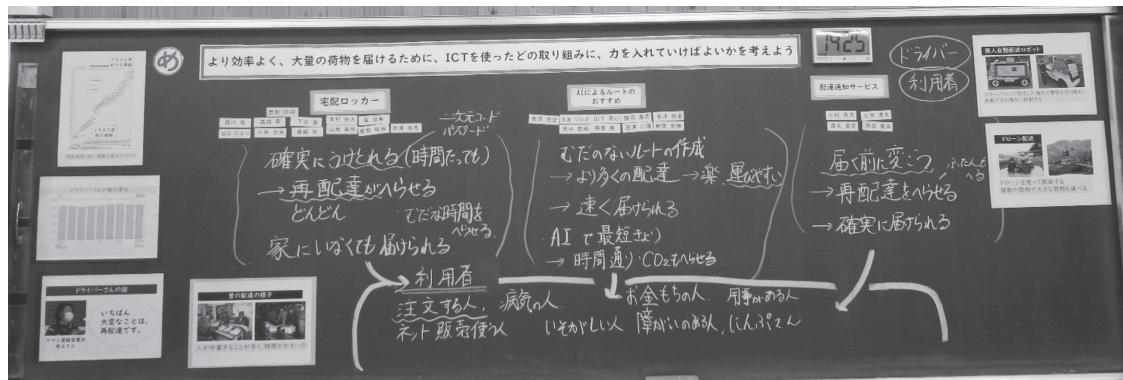
・利用者です。

・覚えている。

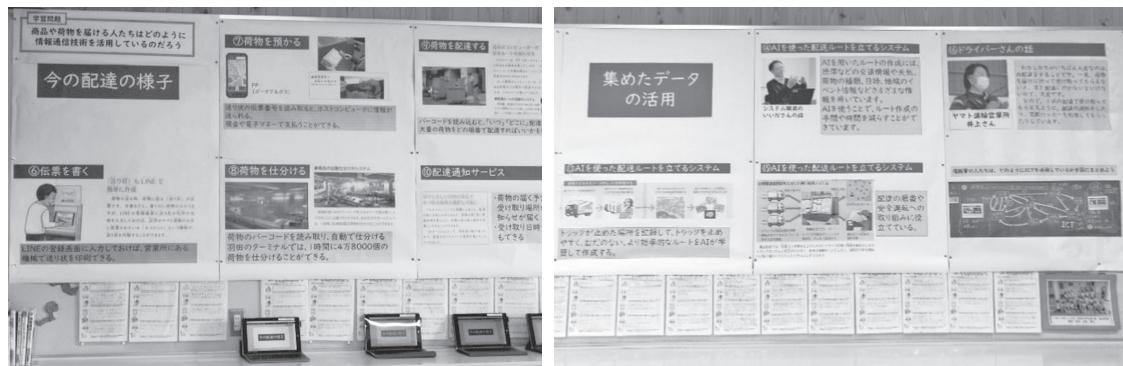


- ・最近は、ロボットが無人で配達できることが分かった。これからもしかすると、人間がいろいろなぐらい発達するかもしれないと思いました。荷物の確認もロボットになるかなと思いました。利用者もドライバーも昔に比べて、とっても便利になったと思いました。
- ・ICTを使うことで、大量の荷物でも3つを使うことでドライバーさんや病気の人、妊婦さんなども助かるのでとてもいいと思いました。

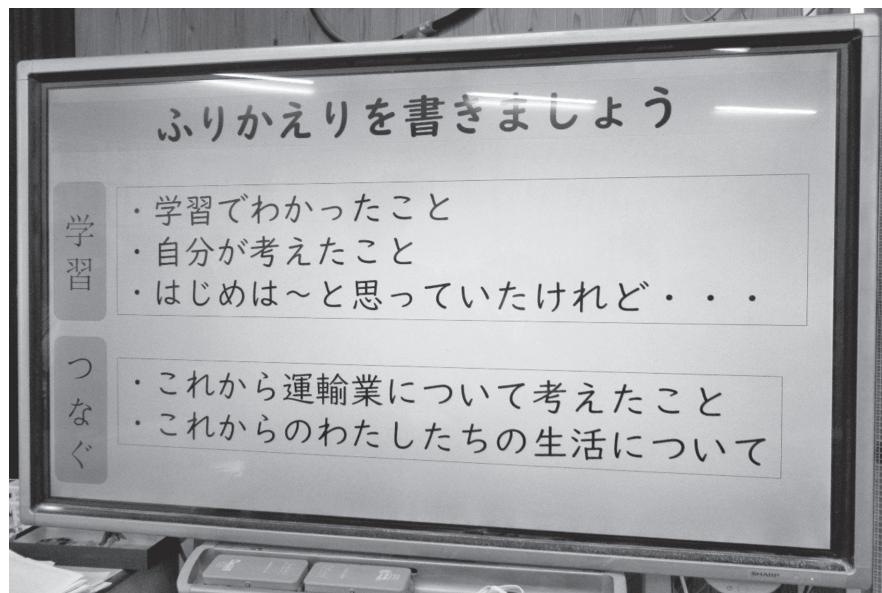
## 板書：本時「ひろげ深める」段階の板書



## 背面掲示



## 提示資料　ふりかえり



(4) 第6学年 単元名「明治の大革新」

## ① 指導の実際

## ア 単元構想と振り返りの工夫

本単元では「予想をたてる」「ひろげ深める」段階において「五箇条の御誓文」を取り上げ、それを軸としながら子どもが意識を継続して学習問題を追究できる単元を構想した。「問題をつかむ」段階では、この単元のはじめと終わりである幕末と明治初めの高輪の絵画を比較できるように提示した。さらに「たった22年間で日本に何が起ったのかな。」とその間の事象を問うことにより、子どもの意見から学習問題が自然と引き出され、「調べてみたい」「どうなっているのだろうか。」と後の学習活動に意識がつながる学習問題の共有ができた。また、「調べ確かめる」段階では、「五箇条の御誓文」を手掛かりとして明治政府の政策と関連付けながら学びを進めている姿が多く見られた。

本時の振り返りを書く場面では、改めて「明治政府がめざした取組は、実現したと言えるかどうか。」を問うとともに、4つの視点（写真2）を電子黒板に提示した。視点を明確に示すことにより、学び方や認識が深まり、次の時間や単元につながっていくような考えを記述する姿が見られた。



写真 1：教室背面の掲示

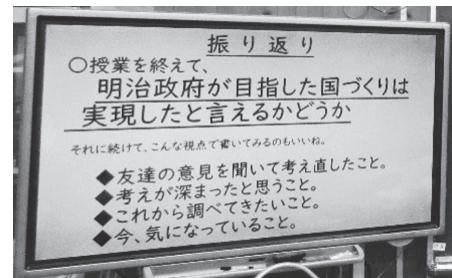


写真2：振り返りの視点

振り返り  
明治政府が目指した国づくりは実現したと言えます。次、政府は広い人材を集めて会議を開いたか、開かなかったのか調べてみたいと思います。

振り返り 明治政府は実現したと言えると思います。版籍奉還を行って天皇を中心になって、産業で国も豊かになつたからです。ぼくは、これから会議をして、みんなで話しして、重要なことはきめること思います。

## 本時の振り返り

イ 認識と判断

本単元では、「見通しをもつことにつながる判断」「深く分かることにつながる判断」の2つの判断場面を単元の中に設定した。「見通しをもつことにつながる判断」場面では、学習問題をクラスで共有した後、「あなたが新政府の一員ならどのようなことをしていくべきだと考えるか。」と問い合わせ、為政者の立場から明治政府の取組を予想した。その予想を「五箇条の御誓文」の内容ごとに分類すると、「『国の勢いを盛んに…。』と『軍隊をつくる』は関係しているそうだ。」「関係しているだけれど、本当にしたのか確かめたいな。」という発言や振り返りが見られ、明治政府の政策を調べていく見通しをもつことが

できていた。単元後半には、「深く分かることにつながる判断」場面として「明治政府が目指した国づくりは実現したと言えるのか。」と問い合わせ、明治政府の政策を「五箇条の御誓文」を手掛かりに改めて考えた。「『五箇条の御誓文』の内容にある『よくないしきたりを改めよう』に対して、身分制度の改正を行ったから実現したと思うよ。」のように、既習内容と「五箇条の御誓文」を関連付けながら話し合う姿が多く見られた。

## ウ 考えを深める手だて

### (ア) 発問について

本時では、「実現するためには、どれも大切なはずなのに、なぜ『政府は、広く人材を集め…。』はしなかったのかな。」と問い合わせ直した。すると、「状況が整っていなかったからかも…。」「優先の順番があったのかも…。」のように、明治政府がどのように、国づくりを進めてきたのかを考える姿が見られた。

### (イ) 板書について

本時では、明治初期までの政策と「五箇条の御誓文」を関連付けて考えられるように、子どもの発言と「五箇条の御誓文」の内容を、上下の配置や下線の色分けで対応するように構造的に板書（p 53 板書 3 下）した。それにより、明治初期までの政策と「五箇条の御誓文」の「政府は、広く人材を集め…。」が、他の内容と比べて関連が数的に少ないことを視覚的に捉えることができた。

### (ウ) 資料について

本時では、幕末から明治初期までの年表（p 53 板書 3 上）を目につきやすい黒板上部に提示した。それにより、既習内容である明治政府の政策を必要に応じて確認することができ、考えの根拠を見つけたり、共有したりする姿が見られた。

### (エ) 視点や立場の明確化

本時では、「実現したと言える。」と「実現したと言えない。」の座標軸にネームプレートを貼り、立場を明確にした上で考えをまとめるようにした。2つの間に貼った子どもは「どちらかというと…。」「この内容から考えたら…。」と両方の立場から考えをまとめていた。また、話し合いの後に、考えの変容があった子どもにネームプレートの位置を貼り直す機会を設けることにより、考えの変容を意識した振り返りを記述する姿が見られた。

## ② 考察

史実は、歴史上の事実である。本単元では、その「五箇条の御誓文」という史実を子どもが追究の手掛かりとする単元構想を行った。だからこそ、子どもは単元を通して史実に立ち返りながら学びを進めることができていた。振り返りにおいては、学び方や自身の認識の深まり、見通し、疑問など意識してほしいことに関わる視点を意図的に提示することが、学び方や認識の深まりを自覚化していくこと、単元を通して子どもの意識がつながっていくことに効果的であることが分かった。また、前時の振り返りを教室に掲示したり、授業のはじめに共有する時間を設けたりするとともに、その振り返りから次のめあてにつなげていくことが、自分（学級）の考えから問題を見つけ解決していくおもしろさを味わい、学びの習慣化を図っていくことにつながったと考える。資料の提示においては、年表の教室掲示が、時間軸で明治初期までの変遷を捉え、近代国家に向けて短期間で様々な改革を進めてきたことを共有するとともに、今後の政策への見通しと次単元への期待を高めることにつながった。また、絵画の比較提示が、子どもの気付きをいかした単元を貫く学習問題の設定につながり、学習問題がより自分（学級）のものとなったと考える。板書と発問においては、明治政府の政策と「五箇条の御誓文」を関連付けたときの数的な偏りが視覚的に捉えやすい板書を示しながら、「実現するためには、どれも大切なはずなのになぜ『政府は、広く人材を…。』

はしなかったのかな。」と問い合わせた。それにより、認識のずれや考える視点をどの子どもも共有しやすくなり、問い合わせに対する知的好奇心の高まりが生まれた。資料の提示や板書の工夫を講じることに留まらず、そこに考える視点を与える発問が合わさることにより、考えをより深める手立てとなった。手立ての意図や効果を明らかにし、それぞれを効果的に関わらせ、講じていく必要があると感じた。

話し合う場面において、活発な議論となるために二項対立の状況がよりはっきりと表れる工夫が必要であった。例えば、「言える」「言えない」の間を認めずに、立場を「言える」「言えない」のどちらか一方に絞ることも考えられる。子どもの実態から単元構成、問い合わせの内容を吟味して意思決定をどのような範囲に設定するのかということは、話し合い活動の質を高めることにつながるのではないだろうか。また、判断する場面を設定する効果的な学習活動の段階と場面についても検討していく必要がある。

子どもは、既習内容や生活経験等を判断の根拠とし、豊かに想像力を働かせ問い合わせに対する様々な考えをもつ。特に歴史を学習する際には、史実と授業中の発言、意識の流れの整合性を見極め、話し合う内容が史実から離れないように考慮する必要があることを再認識できた。

単元を通じて子どもの意識がつながる単元構想、授業展開上の工夫を講じる中で、自ら考え、伝え合い、未来に向かって問い合わせ続ける子どもの育成をめざしたい。



教室側面掲示

# 第6学年 社会科学習指導案

令和6年11月26日（火曜日） 6校時  
第6学年3組（34名） 指導者 富永 俊介

## 1 単元 明治の大革新

### 2 単元の目標

- 日本が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことについて理解するとともに、絵画・写真資料や文化財、地図帳、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようする。
- 明治初期のころの近代化の特色、事象や人物の関連を多角的に考える力、そのころの社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことや判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 明治初期のころの近代化について、主体的に学習問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。

### 3 単元について

#### (1) 子どもの実態と培いたい資質・能力について

4月に、「6年生は社会で何を学ぶのでしょうか。」と聞くと、多くの子どもから「歴史だよ。」と元気いっぱいの声が返ってきた。しかし、そのイメージを問うと、「難しそう。」「覚えることがたくさんあって…。」というマイナスイメージをもつ子どもが半数ほどいることが分かった。6年生では「我が国の政治の働き（以下『政治の働き』と記す。）」の後に「我が国の歴史上の主な事象（以下『歴史』と記す。）」の内容を学ぶこととなっている。「政治の働き」で学んだ政治の考え方や仕組みをもとにした視点から「歴史」を見る能够ができるように、「今の日本の仕組みはどのようにしてつくられたか。」と問い合わせ、「歴史」の学習をスタートした。学びを進めていく中で、歴史上の人物の考え方や働き、文化遺産などに着目して歴史上の主な事象や展開を調べまとめるこの楽しさや、人物の働きや事象同士がつながっていることにおもしろさを感じている子どもも多い。一方で、それらの関連性を漠然と理解できているが、立場を変えたり、自分の考えに根拠を示したりしながら表現することを苦手とする子どももいる。このような実態も踏まえ、学習問題を追究・解決する活動を通して基礎的資料をもとに情報を適切に調べまとめたり、様々な立場や視点から事象や問い合わせについてじっくり考えたりする力を培いたい。また、単元内に設定した判断を問う活動を通して、自分の意見に根拠を示して説明したり、議論したりする力も培いたい。歴史的な事象を「覚えなければいけない」知識でなく、その時々の社会背景や意味などの深まりのある知識として身に付けられるようにしたい。

#### (2) 教材について

この単元では、鎌倉に幕府がおかれたころから700年に及ぶ武士の政治が終わり、天皇を中心となった政治を再びめざしていく転換期を取り扱う。江戸の末期は、黒船（ペリー）の来航による開国への影響により幕府への不満が高まるとともに、長州藩と薩摩藩が同盟を結ぶなど倒幕をめざす動きも出始めた。そして、15代将軍の徳川慶喜の大政奉還、戊辰戦争を経て江戸幕府による政治は終わりを迎える。このような転換

期に明治政府が新しい政治の方針として発表した「五箇条の御誓文」は、新政府の天皇を中心とした政治実現に向けた強い意図を感じるものであり、その内容は、国民が新しい時代に希望をもつことができる政治の方向性を示すものであった。この御誓文のもと、明治政府は急速に近代化を進めていく。岩倉使節団派遣による不平等条約改正への試みをはじめとし、欧米の政治や産業の仕組み、教育、文化を参考にした富国強兵や文明開化など諸外国に追いつき負けない国づくりを実現していった。武士が支配する封建制度からたった数十年でめまぐるしい進展を遂げた日本の歩みを多角的に捉えられるように判断場面を設定し、認識を深めながら単元を展開したい。

### (3) 単元の構想

〔学習指導要領との関連〕 第6学年 内容(2)

歴史と人々の生活「日本」

〔単元の学習問題〕 武士の政治が終わり、明治の新しい国づくりは何をめざしてどのように進められたのだろう。

〔中心概念〕 明治政府は、欧米の文化や仕組みを取り入れながら、天皇を中心とした近代的な国家をめざして政治や社会の新たな仕組みづくりを進めた。



・調べた歴史上の主な事象を関連付けたり、総合したりして、世の中の様子や国家・社会の変化、歴史を学ぶ意味などを考える。

#### (4) 子どもの意識がつながる単元構想について

##### ○ 関心を育てる日常的アプローチ

単元導入前から、政治を進めるうえで大事な役割を果たしてきた指針（十七条の憲法や日本国憲法など）とそれに関係する取組を教室背面に歴史の流れに沿って掲示していく。視覚的に内容を比べられるようにすることにより、「五箇条の御誓文」の示す方向性やその実現に向けた様々な政策との関連性を意識しながら学びを進められるようになる。また、新紙幣とそれに関する書籍等の資料を掲示しておく。紙幣の肖像に使用される人物であるということは歴史的に業績が認められていることの証である。本単元内に登場する渋沢栄一、津田梅子、福沢諭吉、伊藤博文は明治初期の人物である。「この人ってどんな人かな。」と投げかけて掲示しておくことにより、本単元への心理的距離が縮まることを期待したい。

##### ○ 学習問題づくり

子どもたちは、本単元までに武士が支配した政治に関する単元を続けて学んでいる。そこで、単元のはじめに明治初めの高輪の様子の絵画を提示する。江戸のころの街並みの面影もない絵画に「何がおこった。」「一気に変わったぞ。」「なんだか現代に近づいたように感じる。」というこれまでの学習の流れでは説明できない困り感が生じるだろう。その後に22年前の幕末の高輪の絵画を提示し、「たった22年…何がどうようになつたらこのように様子が変わるのかな。」と問い合わせ、時間の経過にも着目して考えられるようになる。事象のはじめと終わりを提示し、その間の事象を聞くことにより、子どもから学習問題につながる考えを引き出し、以後学習問題を追究する原動力にしていく。

##### ○ 「五箇条の御誓文」を手掛かりとした単元展開上の工夫

学習問題をクラスで共有した後に「あなたが新政府の一員ならどのようなことをしていくべきだと考えるか。」と判断する場を設定する。新政府の一員になったつもりで日本の革新に向けた政策について予想することにより、江戸260年の政策や幕末の情勢、国民の思いや願いを総合的に関連付ける必然性が生まれるのではないか。さらに、その予想を「五箇条の御誓文」の内容を手掛かりとして分類する場面を設ける。新政府のめざす国づくりの方向性と予想した政策を照らし合わせたときに生じるずれ（「あれっ、どれにも当てはまらないかも…。」など）や疑問（「『五箇条の御誓文』の内容に当てはまる内容がないな。」など）を明らかにしたいという思いが、後の「調べたしかめる」段階への必要感を生むと考える。

単元後半には、「明治政府は、めざした国づくりを実現したと言えるのだろうか。」と「五箇条の御誓文」を手掛かりに判断する場を設定する。それにより、調べてきた新政府の政策が「五箇条の御誓文」の5つのどれに関連するかを考える必要性が生まれ、歴史的な事象と事象との相互関係に着目して分類したり、総合したりしながら考え、深い学びにつながるだろう。また、明治初期までの政策と「政府は、広く人材を集めて会議を開いて、大切なことはみんなの意見を聞いて決めよう。（広く会議を興し万機公論に決すべし。）」が、他と比べて関連が数的に少ないことを視覚的に捉えることができるよう板書したり、「実現するためには、どれも大切なはずなのになぜ『政府は、広く人材を…。』はしなかったのかな。」と問い合わせたりすることにより、明治政府がどのような国づくりをめざしてきたのか、さらに考えを深めることができるようにしたい。さらに、次単元に意識がつながっていくようにしたい。

このように、単元のはじめと終わりに「五箇条の御誓文」を手掛かりに新政府の政策を判断する場面を設定することにより、単元を通して子どもが意識を継続して学習問題を追究できると考える。

#### 4 指導計画 (全8時間)

段階	学習活動 ・子どもの反応	◇手だて ◆判断を求める問い	評価
問題をつかむ	<p>(1) <u>江戸末期と明治初期の高輪の様子の絵画を比べたり、黒船の来航による開国への影響について考えたりする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしてこんなに一気に変化したのかな。</li> <li>・現代の感じになんだか近づいてきたな。何が起こったのかな。</li> <li>・この2つの絵画は何年ぐらい離れているのかな。</li> <li>・武士がいないぞ…。武士の時代が終わったに違いない。</li> <li>・黒船が来航し、江戸幕府は治外法権と関税自主権がない、不平等条約を結んでしまったのか。</li> <li>・幕末のお米の値段が何倍にもあがっているな。国民生活が苦しくなっていくと不満も高まったのではないかな。</li> </ul> <p>(2) <u>江戸幕府が終わり、新たな政府が動き出したことについて調べ、学習問題をつくる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薩摩の西郷隆盛、長州の木戸孝允、大久保利通が同盟を結び倒幕に動き出したんだ。</li> <li>・最終的に徳川慶喜は朝廷に政権を返還して江戸時代が終わったのか。</li> <li>・260年も続いた江戸幕府が倒れてしまうなんて…。江戸幕府の政治のどこがよくなかったのかな。</li> <li>・「五箇条の御誓文」を新しい政府が示したんだね…これからどう変わっていくのかな。</li> </ul>	<p>◇同じ場所で違う西暦の絵画を提示することにより、時代の大きな変化があったことやその原因について興味をもつことができるようとする。</p> <p>◇黒板に貼った2つの拡大した絵画の下に様子の違いを視点ごとに整理しながら板書することにより、まちの様子が大きく変化したことに気付くことができるようとする。</p> <p>◇開国に伴う状況の変化を武士、町人、百姓などの様々な立場からの不満や願いを聞くことにより、江戸幕府の終焉に影響していることに気付くことができるようとする。</p>	態① 知① 思①
予想をたてる	(3) <u>「あなたが新政府の一員ならどのようなことをしていくべきだと考えるか。」について話し合い、学習計画を立てる。</u>	◇意見を出し合った後に「五箇条の御誓文」を提示することにより、子どもの予想と「五箇条の御誓文」の内容を関連付けながら分類ができるようになるとともに、単元の学習に見通しをもつことができるようとする。	態①
調べ方をきめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代の政策や状況を考える必要性がありそうだな。</li> <li>・開国により外国の文化との違いを実感した人も多いから、外国との関係性を重視したほうがいいのでは。</li> <li>・江戸時代は身分制度がはっきりしていてみんなが政治に参加するなんてことができていなかった。身分制度を改善していくことが大切だ。</li> <li>・明治の新しいきまりについて調べていると予想がはっきりするかもしれない。</li> <li>・身分制度がどうなっていくのかを調べていくといいかな。</li> </ul>	<p>◆あなたが新政府の一員ならどのようなことをしていくべきだと考えるか。</p> <p>【判断（見通し）】</p>	
調べたしらべる	<p>(4)(5) <u>新政府の政策を調べる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・版籍奉還や廃藩置県を行って、明治政府を中心として政治を進められるようにしたんだ。</li> <li>・古い身分制度を改めたけれど、まだまだ十分なものではなかったんだな。</li> <li>・不平等な条約の改正のために欧米に負けない国づくりが必要となったのか。そのために富国強兵の政策や経済の発展のために外国の技術者や学者を招いて産業を盛んにしようとした殖産興業を進めたんだ。</li> <li>・渋沢英一は、新紙幣の肖像画にも選ばれていたな。この時代の産業の発展に力を注いだんだ。</li> <li>・自分たちが予想したことによいことをしていたな。文化についてはどうなのかな。</li> </ul>	◇前時の調べる視点を想起する場面を設定することにより、資料から視点に合った情報を選び、考えることができるようとする。	知①

調べたりしかめる	<p>(6) <u>変化した人々の暮らしについて調べる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治時代に入って、学校に通っている人の割合は急速に高まったな。1900年前半にはほぼ100%に近いぞ。</li> <li>・外国の文化や技術が普及して街並みが大きく変わったな。</li> <li>・福沢諭吉が教育に大きな影響を与えた人として有名だね。紙幣の肖像画にも選ばれていたよ。</li> <li>・文化や人々の生活も大きく変化してきたから、不平等な条約の改正に向けてもう一度動き出さないのかな。</li> <li>・明治に入っているいろいろな政策が行われ、文化、生活に変化があったみたい。一度整理してみたいな。</li> </ul>	<p>◇学校に通った子どもの割合の変化を表したグラフを提示することにより、今につながる仕組みが生まれたことに気付くことができるようとする。</p>	知①
みんなで考え方話し合う	<p>(7) <u>どんな国づくりをめざしたかまとめる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学制が整い、学校に通う子どもが増えたことが江戸幕府のころとの大きな違いだから。</li> <li>・身分制度をやめて四民平等にしたことは大きな変化だと思うよ。</li> <li>・明治政府は、天皇を中心にして政治を行うとともに豊かで外国に負けない国をめざしたね。めざす国づくりは、実現したのかな。</li> </ul>	<p>◇明治政府の政策をまとめる活動を設定することにより、これまでの学習内容を振り返り、明治政府の政策を総合して捉えることができるようとする。</p>	知② 思②
ひろげ深めれる	<p>(8) <u>明治政府は、めざした国づくりを実現したと言えるのか話し合う。(本時)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徴兵令は「国を盛んにしていく」ことに関係がありそう。だから、実現したと言えると思う。</li> <li>・岩倉使節団は不平等条約改正のために欧米へ派遣されたから「世界共通の正しい道理」に対しての政策だな。だから、実現に向けて動いたと言える。</li> <li>・学校制度の改革によって学校に通う子どもの割合が増加したから「願いがかなえられる世の中」につながるかな。だから実現しているのではないかな。</li> <li>・「広く人材を…。」は、関連する政策があまりないな。でも必要なことだと思う。これから取り組んでいくのかな。調べたいな。</li> </ul>	<p>◇江戸の末期から明治初期までの年表を提示することにより、明治政府が実際にした政策と「五箇条の御誓文」を関連付けながら明治政府の国づくりや進め方の意図などを考えることができるようとする。</p> <p>◆明治政府は、めざした国づくりを実現したと言えるのか。</p> <p style="text-align: right;">【判断（深く分かる）】</p>	思②

## 5 単元の評価規準

知識・技能	<p>① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて絵画・写真や地図帳、年表、グラフなどの資料で調べ、必要な情報を集め、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを理解している。</p> <p>② 調べたことを年表にまとめたり分類したりして、明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解している。</p>
思考・判断・表現	<p>① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問い合わせを見出し、これまでの政治から欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めようとしたことについて考え表現している。</p> <p>② これまでの政治、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりにしながら総合したり関連付けたりして、明治政府がめざす国づくりや進め方について考え、適切に表現している。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>① 明治政府のめざした国づくりとその実現に向けて行った政策について、予想や学習計画を立て、自己の学習を調整しながら追究し、解決しようとしている。</p>

## 6 本時の学習（8／8時間）

<b>本時のポイント</b> <p>「五箇条の御誓文」を手掛かりとし「明治政府はめざした国づくりを実現したと言えるのだろうか。」と問うことにより、明治初期までの政策や文化の進展と「五箇条の御誓文」を関連付け、理由や根拠を示しながら判断、議論をすることができるようになるか。</p>	<p><b>子どもの意識の流れ</b>  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">□</span>…本時のめあて、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">□</span>…子どもの意識、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">[ ]</span>…主な問い合わせ、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">■</span>…主な資料)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p><b>■「予想をたてる」段階の板書</b></p> <p>「五箇条の御誓文」も手掛かりに考えられそうだ。</p> <p><b>【判断を求める問い合わせ】</b>          明治政府は、めざした国づくりを実現したと言えるのか考えよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <span>実現したと言える。</span> <span>実現したと言えない。</span> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="width: 30%;"> <p>広く人材を集めて会議を開いて…。</p> <p>国会はまだ開かれていないままだ。</p> <p>一番はじめに書かれていることだから大切な気がするのにな。</p> <p>外国には、会議を進めていく仕組みはなかったのかな。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>身分の上下を問わず、心を1つに…。</p> <p>近代工業が発達して官営工場をつくったから…。</p> <p>地租改正によって国の収入が安定したものになつて…。</p> <p>徴兵令によってみんなで国のためにという意識が…。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>公家と武家が一体となつて…。</p> <p>解放令によって差別に苦しめられてきた人々も平民になり、職業や住む場所を自由に選択…。</p> <p>学校制度の改革が進み学校に通える子どもが増えたり、福沢諭吉の「学問のすめ」に…。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>これまでのよくないしきたりを…。</p> <p>不平等な条約の改正準備のために岩倉使節団を派遣してたから…。</p> <p>武士の支配するところから長年続いた身分制度を改めて、人々を華族、士族、平民としたから…。</p> <p>不平等条約改正のため欧米の文化を積極的に取り入れたから…。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>新しい知識を世界から学び…。</p> <p>岩倉使節団を派遣して外国の仕組みや産業を学ぼうとしたから…。</p> <p>版籍奉還や廢藩置県によって天皇中心の政治に変えたから…。</p> <p>不平等条約改正のため欧米の文化を積極的に取り入れたから…。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>実現するためには、どれも大切なはずなのに          なぜ「政府は、広く人材を集め…。」はしなかったのかな。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 30%;"> <p>まだ、明治は、続くから「五箇条の御誓文」の「広く人材を…。」に関する政策をこれから進めるのかな。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>鎖国状態が長かったから、外国に追いつくことを優先したのではないか。したくてもできなかつたのではないか。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>外国に負けない国づくりをしないと、不平等な条約を改正できないし、黒船来航と同様に対等に渡り合えない。だから、しなかつたのではないか。</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">次の単元で学ぶことが見えてきた。</p> </div> </div>
<p><b>学習活動</b> ◇手だて ◎評価          (～) 本時のポイントに関わる手だて</p> <p><b>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</b> ⑤</p> <p>◇ 「予想をたてる」段階の板書を示すことにより、「五箇条の御誓文」を手がかりに予想を分類したことを想起できるようにし、本時のめあてをつかむことができるようになる。</p> <p><b>2 明治政府はめざした国づくりを実現したと言えるのかについて考える。</b> ⑩</p> <p>◇ 幕末から明治初期にわたる年表やこれまでの板書、子どもの振り返りを教室に掲示しておくことにより、必要に応じた情報を探すことができるようになる。</p> <p>◇ ネームプレートで自己決定する場面を設定することにより、自分の立場を明確にして考えをまとめられるようになる。</p> <p><b>3 考えたことを基にクラス全体で話し合う。</b> ⑯</p> <p>◇ 五箇条の御誓文と明治政府の政策を色分けしたり、上下に対応させたりして板書することにより、それぞれを関連付けて考えることができるようになる。</p> <p>◇ 話し合いを整理した板書をもとに、子どもの意識をゆさぶることにより、国づくりの方向性について考えを深めることができるようになる。</p> <p><b>4 話し合ったことを基に振り返りをまとめる。</b> ⑤</p> <p>◇ 振り返りの視点やキーワードを提示することにより、自己の学びを振り返ったり、次時への意欲を高めたりすることができるようになる。</p> <p>◎ 五箇条の御誓文と明治政府の政策を関連付けて考え、明治政府がめざす国づくりについて考えたり、表現したりしている。</p> <p>【思②】(発言・ワークシート)</p>	

## 授業記録

教師の発問・支援	子どもの発言・反応
<p>○今日はこの单元8回目です。この学習問題で学んできました。(TV画面に映す。)</p> <p>○これは3回目「予想をたてる」場面の板書(板書1)です。(TV画面に掲示する。)</p> <p>○金色のところは何だったかな。ちょっと小さくて見えづらいよね。後ろ見て。(背面の「五箇条の御誓文」を見せる。)</p> <p>○これが昨日みんなで話し合ってまとめた板書(板書2)ですね。学習問題の答えが見つかりました。明治政府はどのような国づくりをめざしましたか。</p> <p>○そうでしたね。明治政府は、天皇中心、豊かで外国に負けない国づくりをずっとめざしてきたわけです。</p> <p>○今日は、考えを「ひろげ深める」時間にできればと思います。「ひろげ深める」の掲示を板書に貼る。)</p> <p>○実は昨日、今日考えようと思っていることをもうすでに考え始めていた人がいたんですよ。その人が昨日、言ったことがどれか分かりますか。</p> <p>○「五箇条の御誓文」は明治政府がめざしていた国づくりに関わる方針でした。今日は、この方針を手掛かりにしながら、明治政府の一員になったつもりで考えてほしいと思います。</p> <p>(明治政府の3人の写真を板書に貼る。)</p> <p>(めあてを板書)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>明治政府はめざした国づくりを実現したと言えるか考えよう。</p> </div> <p>明治政府はめざした国づくりを実現したと言えるのでしょうか。今日は、「五箇条の御誓文」を手掛かりにしながら考えましょう。</p> <p>(ワークシートを配付する。)</p> <p>○ワークシートに明治政府の立場から「五箇条の御誓文」を手掛かりに考えをまとめましょう。書き方を説明します。</p> <p>(ワークシートの書き方をTV画面に示しながら説明する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>立場を矢印で決める。</li> <li>理由の根拠を示して書く。</li> <li>「言える」「言えない」で迷ったときは2つ書いててもよい。</li> <li>ノートなどこれまでにまとめている物を手掛かりにしてもよい。</li> <li>まとめる時間は7分間</li> <li>ネームプレートを考えている途中で列ごとに貼りに来る。</li> </ul>	<p>・「五箇条の御誓文」です。</p> <p>・天皇中心です。</p> <p>・豊かで外国に負けない国をめざしました。</p> <p>・だれ。だれ。</p> <p>・「五箇条の御誓文」に関係していることを言っていたな…。</p>



(机間巡回しながら)

- ・振り返りで書いた考えに + a してね。
- ・根拠とした資料は何かな。
- ・立場はもう決まったかな。○○の列は貼りに行きましょう。
- ・矢印をここにしたってことは…「実現した」って言えることもあるってことかな。その立場から理由も書いてみよう。

○まず「実現した」の立場から聞いていきましょう。

○書いた本って何ていう題名だったのかな。

○どこに書いてあったのかな。

○だから何が高まったのかな。

○みんなは、どう思いますか。

○殖産興業に付け足しはありますか。

○渋沢栄一って何円札だったかな。

○今、いくつか意見を言ってもらったけれど、今日はこれも手がかりにしていこうっていうのがあったよね。

○今、出ているこら辺（学問、殖産興業付近を指しながら）って「五箇条の御誓文」のどれに関係してるかな。

（関係付けた「五箇条の御誓文」を板書に貼る。）

○みんなどうですか。関わっているのかな。

・福沢諭吉の教えによって、人々の考えが変化し、豊かになったと思います。

・「学問のすゝめ」

・ペリーが日本に蒸気機関車の模型をプレゼントして、次に来日したときには日本人が蒸気機関車の模型を作っていた。技術が上がっている。

・資料集 p 123にあります。

・だから、外国に負けていない技術力が高まった。

・いいと思う。

・教科書 p 176にもあるように、廃藩置県や版籍奉還を行った。武士の力が弱くなつて天皇中心に近づけたと思ったから実現したと思います。

・教科書 p 179に殖産興業により産業を発展させたことが書かれていて、豊かな日本になっていました。

・「日本の産業が発展していく基礎に…。」とも書いています。富岡製糸場ができたからこそ今の日本がある。今につながっている。

・p 179の資料キには、「渋沢栄一が500あまりの会社の設立に携わった。」とあって今の日本に近づいて豊かになったと思います。いろいろな会社に携わったことが書いていて、外国に負けない国づくりの実現に近づいたと思う。

・一万円札。

・「五箇条の御誓文」

・「国の勢いを盛んにしよう」は、関係していると思う。

・関わっていると思う。

・「新しい知識を…」は p 179の「恵まれない人々への社会福祉事業へも熱心に関わった。」ということだから新しいことに関わると思うから選びました。

・廃藩置県などをして武士の力をなくしたから「よくないしきたりを改めよう」がそこに関係

○みんなどう思う。

○今までって武士が力をもっていたよね。何大将軍だったかな。(側面掲示を指しながら)

○これ(廢藩置県、版籍奉還)をするようになってどうなったかな。

○あとのこれ(「政府は、広く人材を集め…。」)とこれ(「公家と武家が一体となって…みんなの願いがかなえられる…。」)の2つはどうだろう。ここに当てはまる政策は思いつくかな。「みんなの願い…。」はかなえられる世の中にするために何をしたのかな。

○解放令のどのようなことが関わっているのかな。



○これを見て「あらら」って思ったことないかな。  
○どれも大事なはずなのにどうしてこれだけ何もないのだろう。

○「政府は、広く人材を集め…。」に注目したんだね。

○この人たちが全部決めたってことか…。みんなこれでいいのかな。これって「五箇条の御誓文」実現しているのかな。

○じゃあ、大事なのにどうしてこっち(「政府は、広く…。」以外の「五箇条の御誓文」)をたくさんしたのかな。

○状況を整えるためにしたことって…。

○優先で整えたものってあったのかな。

するのではないかな。

・ううん、微妙…。

・世界共通なのかな…。

・武士が力をもっていることは政府からしたら「よくないしきたり」じゃないかな。

・征夷大将軍。

・天皇中心になった。

・解放令だと思います。

・身分制度で平民、士族、華族と身分を新しいものにしたから関わっていると思いました。

・でもさ、差別されているからかなっていないと思うよ。

・教科書p177の本文に「長い間…むしろ生活は苦しくなった。」とあるよ。

・仕事がないと生活が厳しいよね。

・資料のp83に書いてる「四民平等」の中で「名字の自由、職業の自由、刀を持たない。」というルールができて、自由になった。

・百姓や町民からしたらよくなつたのかも。

・「政府は、広く人材を集め…。」の「五箇条の御誓文」に合うことが一つも無い。

・教科書p178の本文に「政府は経済を発展させるためや繁栄させるために、海外から呼んで…。」と書いているから、日本人でなく海外から人を呼んでいたからできていないと思いました。

・だったら「新しい知識を…。」に関わってくると思うな。

・上の立場の人(明治政府の中心人物)が決めたのではないかと思います。

・あかん。「四箇条の御誓文」になってしまう。

・ないといけない。これがあってこそ五箇条だよ。大事。

・先に人材を集めるよりは、外国から知識を学んだり、よくないしきたりを直したりとか4つが一番ほしかったことだからかな。

・まだ江戸時代の考え方が残っていた。昔って孤立してチームに分かれていたから、ぴりぴりしていたんじゃないかな。整えられていない。だから、まず状況を整えることを優先したのではないか。

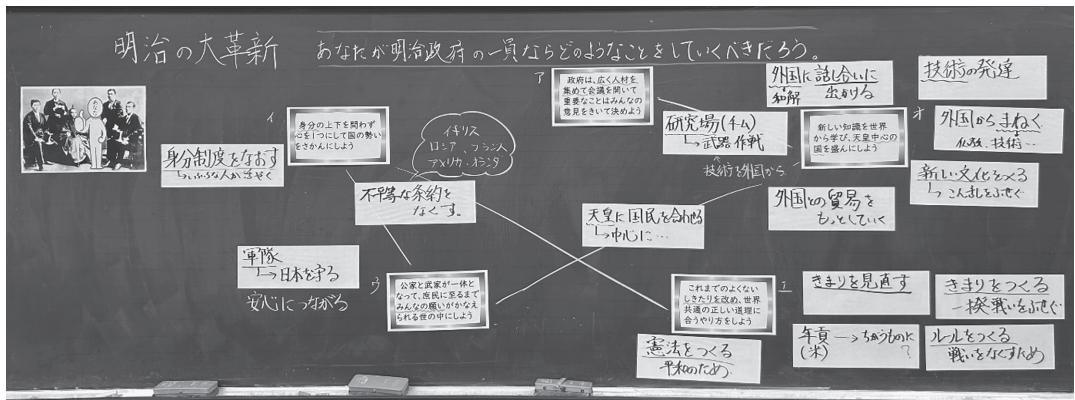
・版籍奉還…。四民平等…。

・あったと思う。

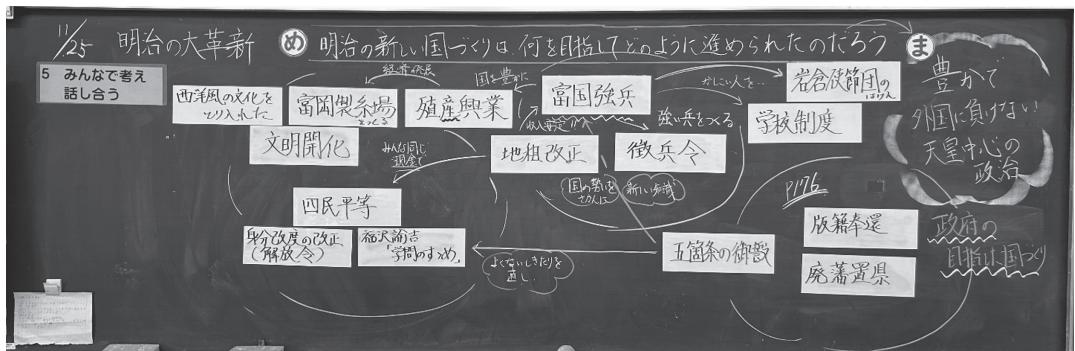
・海外からたくさん知識をもらっていたから…会

<p>○じゃあ会議はいらないのかな。</p> <p>○ここ（「政府は、広く人材を…。」）の部分はやつていかないのかな。</p> <p>○こういうことかな。 （「五箇条の御誓文」の掲示の間に矢印をつけていく）</p> <p>○順番も欠かせないのかな。</p> <p>○なるほどな。最終的には「政府は、広く人材を…。」をやるってことかな。じゃあ、手を挙げてください。</p> <p>○明治政府がしてきたことも改めて考えることができたと思います。また、これから学習で、「政府は、広く…。」がどうなっていくのかについても考えていこうね。</p> <p>○最後に学習のまとめとして振り返りを書いてもらおうかな。書いてもらいたいことを決めてます。（TV画面に振り返りの視点を映す。）</p> <p>○この段階で、はじめと考えが変わった人はいますか。</p> <p>○考えが変わった人もいたみたいですが、ほかの人はどうでしょうか。では、今日の振り返りをまとめましょう。</p> <p>○まだ書いている人が多いけれど、振り返りを伝えてもらいます。（意図的指名）</p> <p>○ここ（「政府は、広く人材を…。」の辺りを指しながら）がどうなったか考えていきたいね。ところで、明治って今何年経っているかな。</p> <p>○明治政府は実現に向けて頑張ってきたのですね。これからどうなっていくか次回、学んでいきましょう。</p>	<p>議を開いてまで意見を求める必要がなかったのではないか。会議を開かずに富岡製糸場を造つたんだったらすごくないですか。日本に勢いがあったのだったら、そのままでもいいんじゃないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いや…。いらないわけではないけれど…。</li> <li>・「新しい知識を…。」から「これまでのしきたりを…。」「みんなの願い…。」「国の勢いを…。」「政府は、広く人材を…。」って左に順番にしていると思う。</li> <li>・そうそう。</li> <li>・やっていくと思う人（14人）</li> <li>・やらない人（15人）</li> <li>・迷っている人（1人）</li> </ul> <p>・ちょっとネームプレートを上に移動します。友達の意見を聞いて考えが変わりました。 「ああこういう考えもあったんだな。」って思つて…。友達の考えに賛成できたから上にいきました。また、『学問のすゝめ』のところで、そういう視点もあったと気付いたので、ネームプレートを移動させました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「言える」に意見が変わりました。友達の意見を聞いて「五箇条の御誓文」には、順番、優先順位があるのかもって思いました。</li> <li>・明治政府がめざした国づくりは実現したと言えます。次、政府は広い人材を集めて会議を開いたか開かなかったかについて調べてみたいと思います。</li> <li>・明治政府がでてからなら6年です。</li> <li>・すごい短い。僕らが1年から6年の間と同じくらい。</li> <li>・こんな短い時間でこんなにたくさんのことしたのってすごいよ。</li> </ul>
---	---

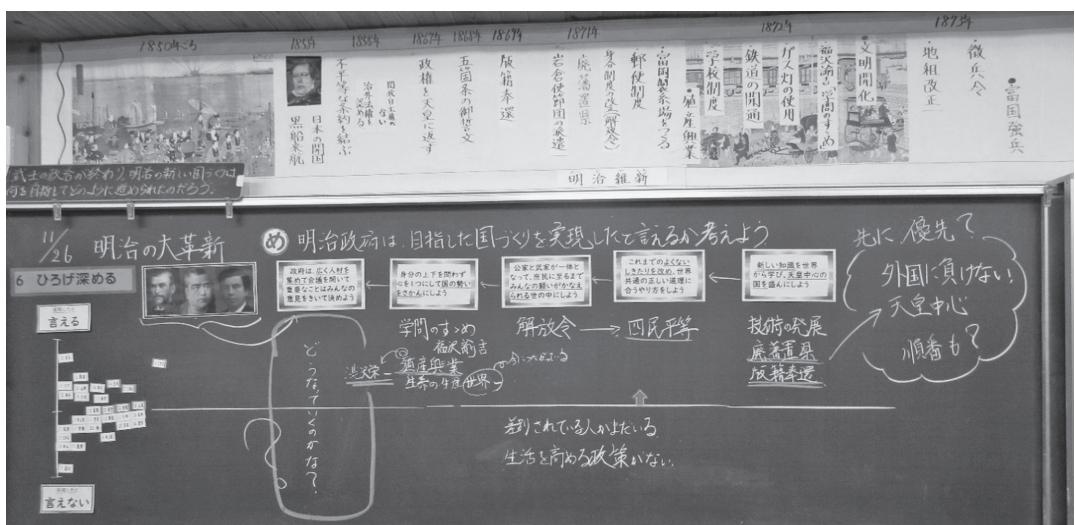
板書1：「予想を立てる」段階の板書



板書2：「みんなで考え方話し合い」段階の板書

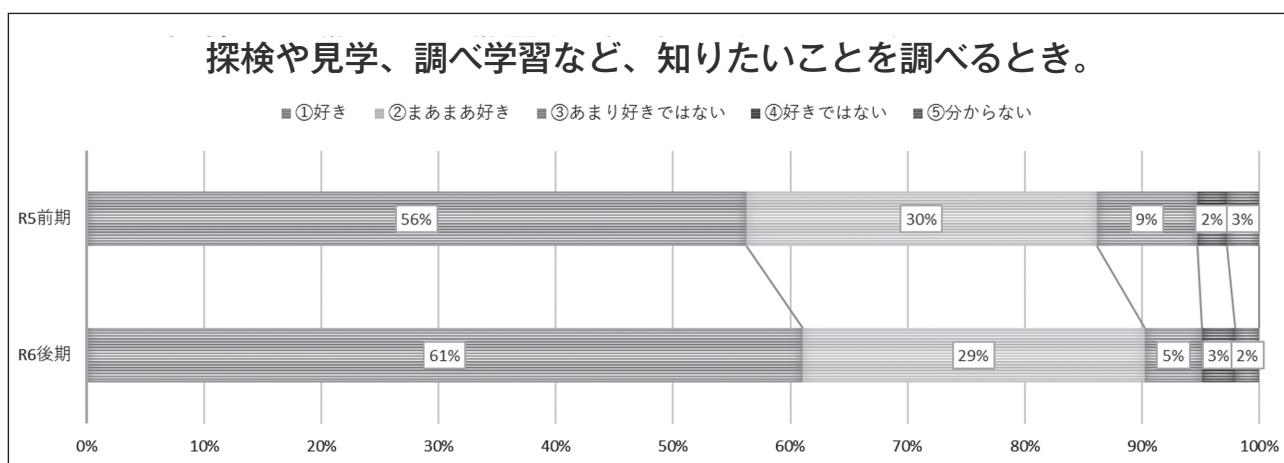
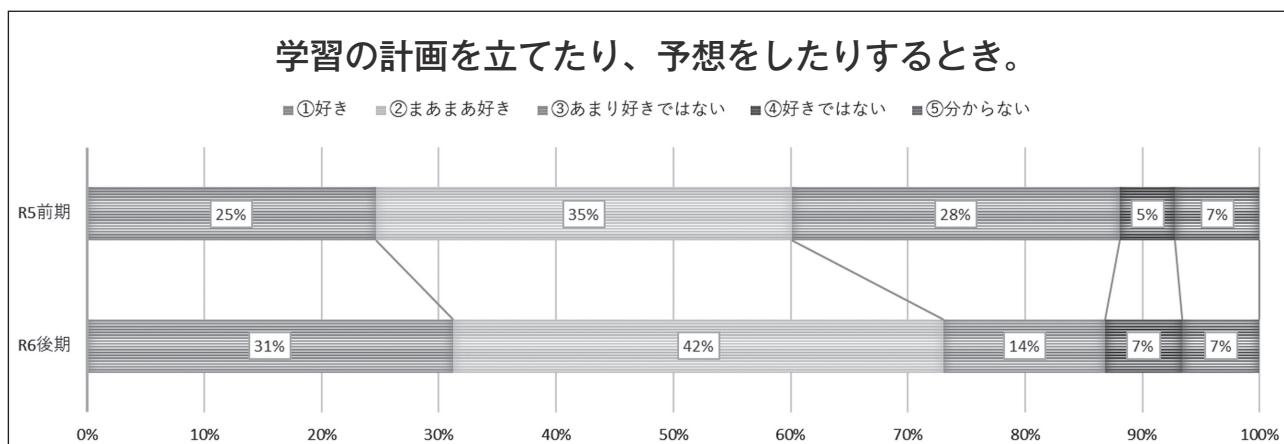
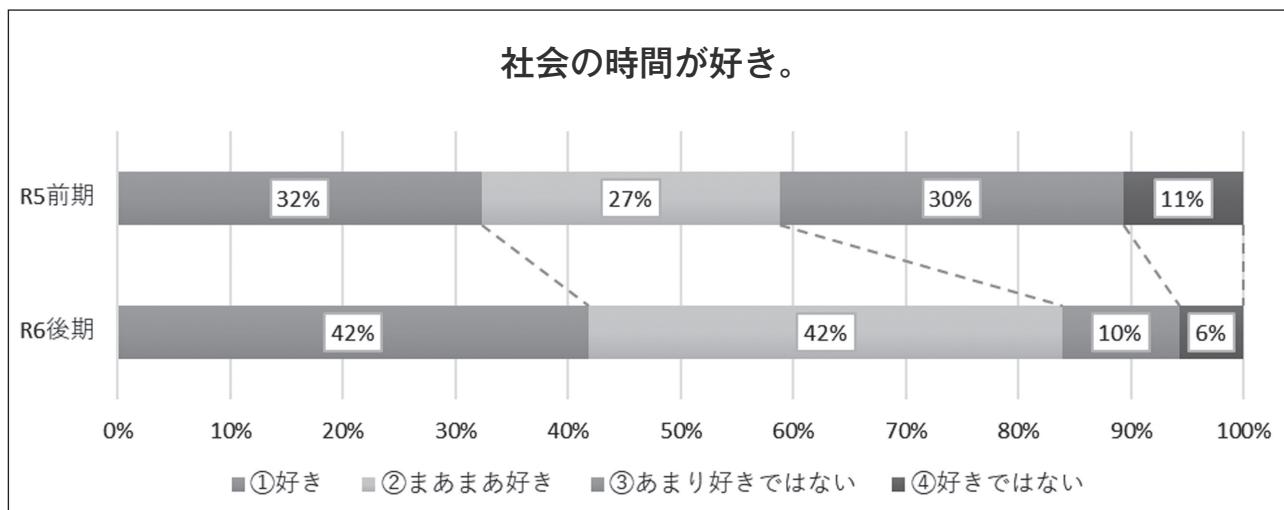


板書3：本時「ひろげ深める」段階の板書



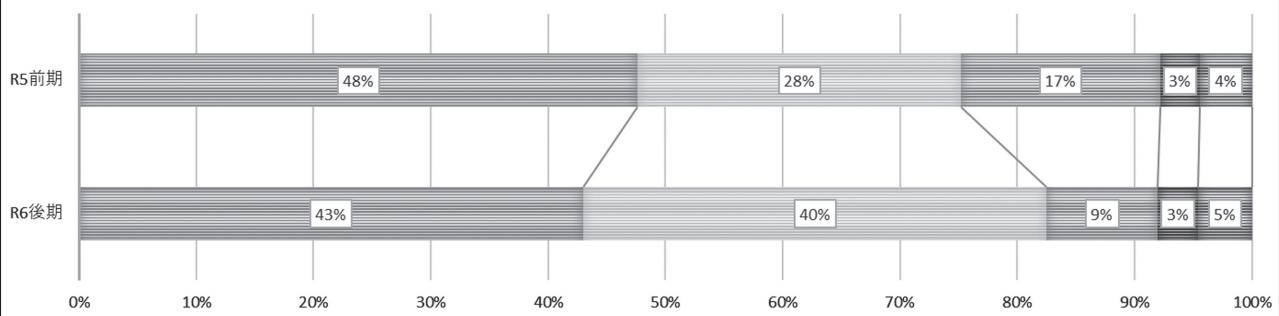
## 2 社会科意識調査

以下は、本校が社会科研究を始めた令和5年度の前期と、2年間研究を続けた令和6年度の後期に、子どもにとったアンケート調査の結果を比較したものである。



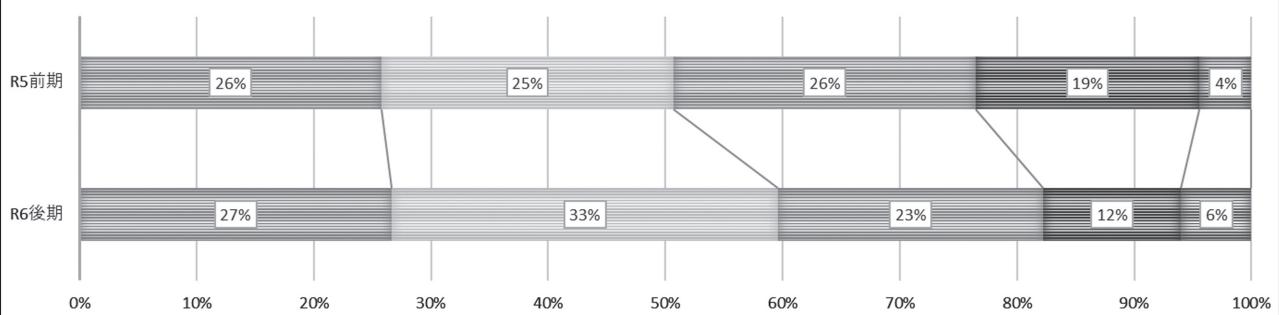
### 調べたことをペアやグループ、全体で話し合っているとき。

■①好き ■②まあまあ好き ■③あまり好きではない ■④好きではない ■⑤分からない



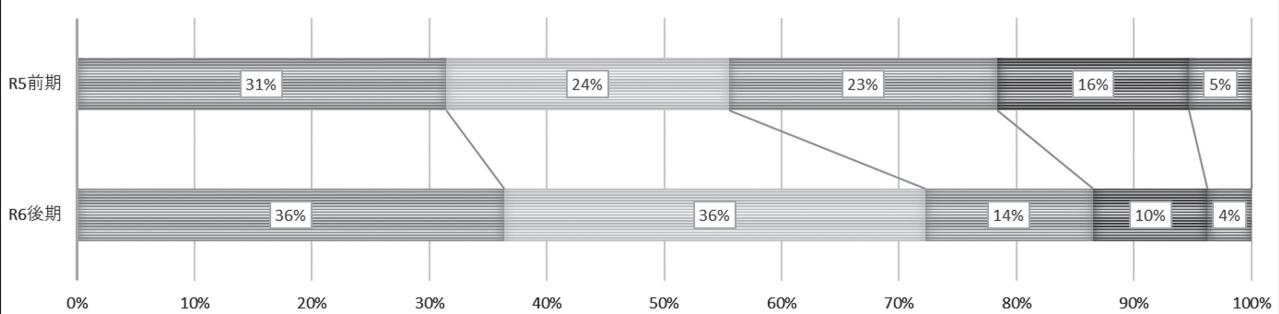
### 自分が調べたことや考えたことを発表しているとき。

■①好き ■②まあまあ好き ■③あまり好きではない ■④好きではない ■⑤分からない



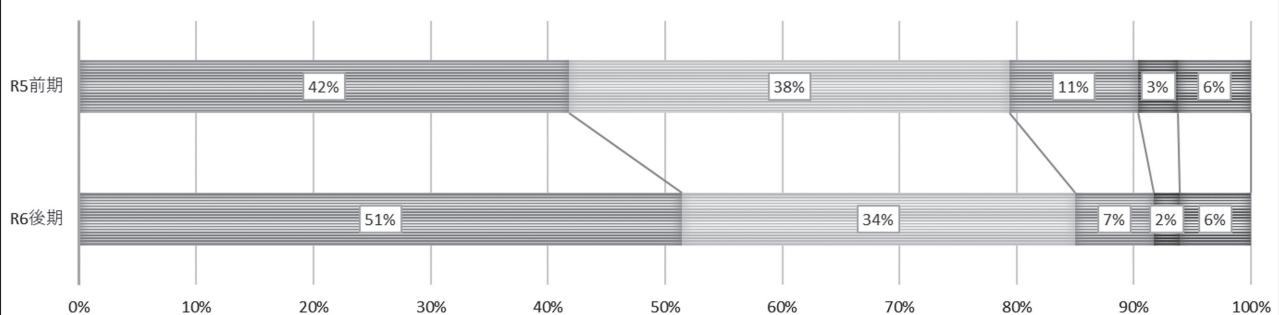
### 自分の考えをノートなどに書いているとき。

■①好き ■②まあまあ好き ■③あまり好きではない ■④好きではない ■⑤分からない



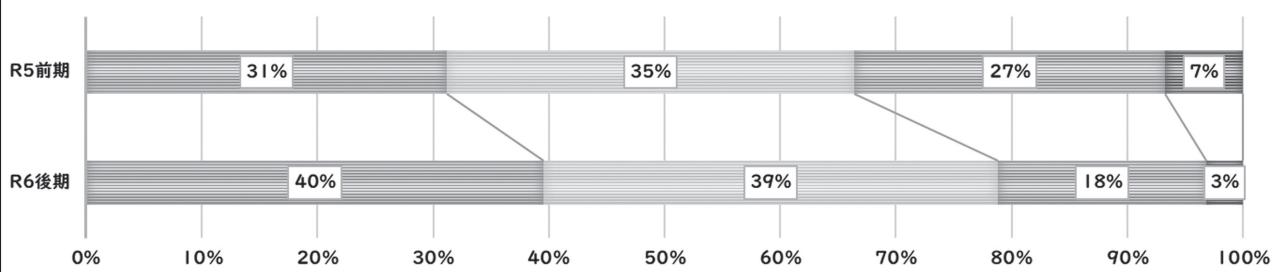
### 友達の考えを聞いているとき。

■①好き ■②まあまあ好き ■③あまり好きではない ■④好きではない ■⑤分からない



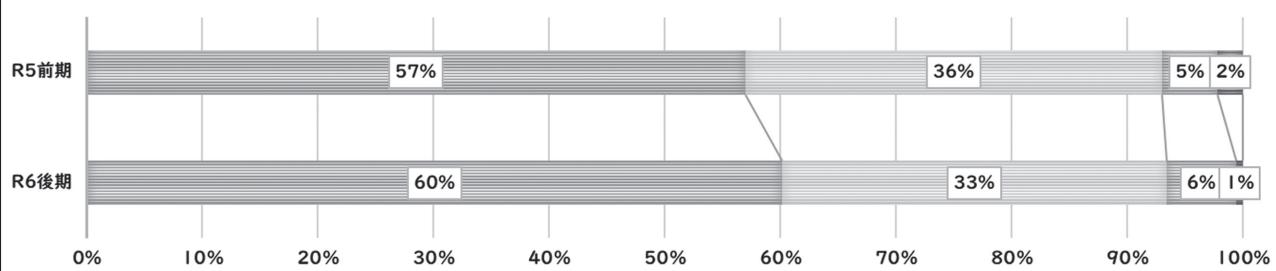
### 自分の意見や考えをもつ。

■①できている ■②だいたいできている ■③あまりできていない ■④できていない



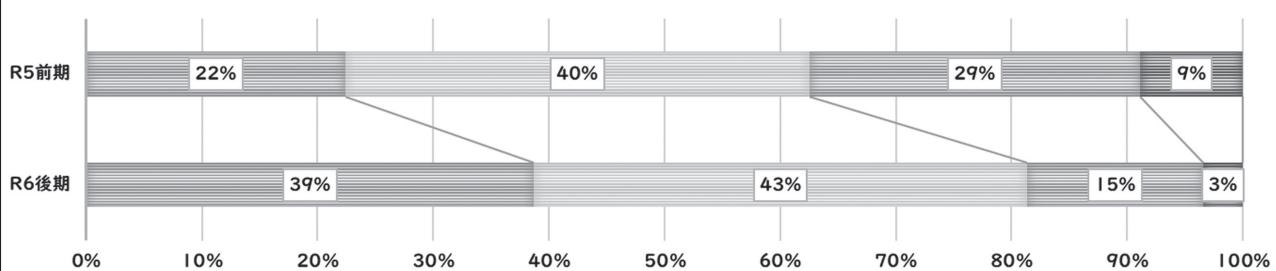
### 友達の意見をしっかり聞く。

■①できている ■②だいたいできている ■③あまりできていない ■④できていない



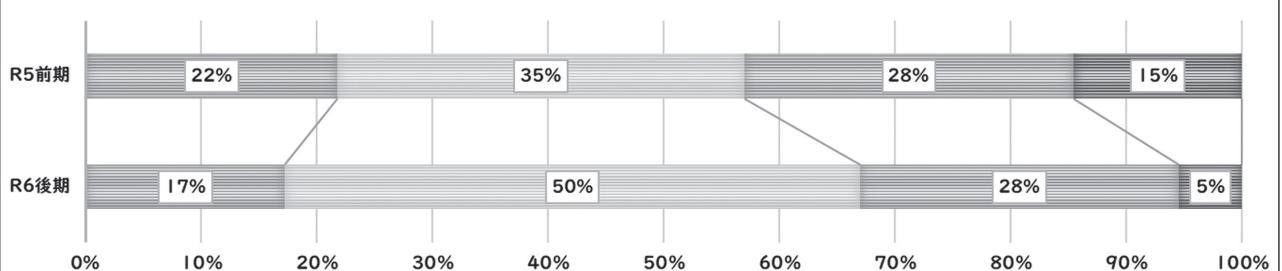
### 自分の意見や考えをもとに、話し合いができる。

■①できている ■②だいたいできている ■③あまりできていない ■④できていない



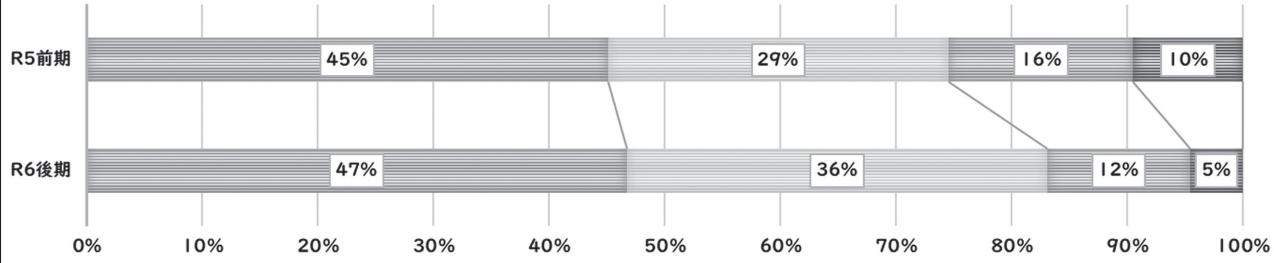
### 学習後も引き続き考えることができている。

■①できている ■②だいたいできている ■③あまりできていない ■④できていない



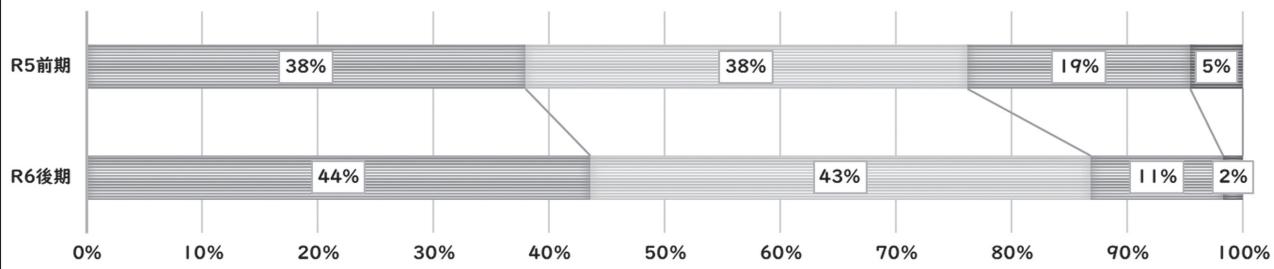
## 社会の出来事に興味をもつ。

■①できている ■②だいたいできている ■③あまりできていない ■④できていない



## いろいろな資料の読み取り。

■①できている ■②だいたいできている ■③あまりできていない ■④できていない



### III 研究の成果と課題

#### 1 研究の成果と今後の課題

##### ① 単元構想と振り返り

振り返りを生かした単元構想は、研究主題である問い合わせ続ける子どもの育成に向けて、有効であることが明らかになった。子どもの意識は、単元を通してつながるようになってきている。問い合わせ意識しながら単元の学習を進めることにより、認識が深まったり新たな問い合わせを見いだしたりする姿が見られた。一方で、子どもたち一人一人の問い合わせを大切にし、単元を通して意識をつなぎ、それぞれの認識を深めていくためには、個別最適な学習や自分の学び方に目を向けた振り返りの仕方も視野に入れて、研究をさらに進めていく必要がある。

##### ② 認識と判断

自分で「選ぶ」「決める」場面を意図的に設定することにより、根拠や理由をもとにして自分の考えをもち、他者と話し合って認識を深めていくことにつながった。「自分の意見を聞いてほしい。」「みんなの考えを聞いてみたい。」といった思いが生まれるような判断場面の設定が、意欲的な話し合いにつながり、自分の考えを表現する力が身に付きつつある。さらに、より説得力のある主張ができるように、適切な資料を拠り所として話し合いを進める手だても考えなければならない。より認識が深まることや、判断する力が高まることをめざして、それぞれの単元や場面、学年に応じた「社会への関わり方を考える判断」、「深く分かることにつながる判断」、「見通しをもつことにつながる判断」の3つの判断の活動の在り方や取り入れ方について、さらに研究を深めたい。

##### ③ 考えを深める手だて

社会的事象の見方・考え方を働かせるために、発問、資料提示、板書、視点や立場の明確化等の手だてを意図的・計画的に講じることにより、自分の考えを整理したり、根拠や理由をもって考えたりすることができた。そうすることにより、対話的な学習につながり、多角的に考える力が育ちつつある。一方で、効果的な問い合わせや資料の選定などに課題が見られたため、引き続き研究を重ねていく必要がある。さらに、汎用的に考えられるように、発問や資料提示の工夫を続けたい。

## 参考文献・研究同人

### 《参考文献》

- |   |                    |
|---|--------------------|
| 『小学校学習指導要領解説 社会編』                               | 文部科学省 日本文教出版 2018年 |
| 『小学校 新教科書ここが変わった！社会：「主体的・対話的で深い学び」をめざす新教科書の使い方』 | 鎌田 和宏 日本標準 2020年   |
| 『授業の見方「主体的・対話的で深い学び」の授業改善』                      | 澤井 陽介 東洋館出版社 2017年 |
| 『「本当に知りたい」社会科授業づくりのコツ』                          | 澤井 陽介 明治図書出版 2022年 |
| 『社会科授業づくりは「単元で考える』』                             | 小倉 勝登 明治図書出版 2023年 |

### 《研究同人》

#### 令和6年度

米田 直紀	橋本 賢治	濱條 敦代	荒井 隆美	木下 真紀	川口 能史
馬越 敦子	森 和子	田内 幸代	濱口 智子	大下 真季	岩田 由美
土橋 由佳	宮下 鉄矢	佐々木恭子	富永 俊介	長野 麻衣	蒲原 美沙
吉田 夏実	中桐 奈美	前川 勇太	窪川 真美	増田 智美	竹内 海斗
松尾 佑哉	武村 汐音	伊達 昌宏	北田 育世	渡辺いわえ	岩佐 壽子
小笠原利恵	都築 陽平	中坂 洋晟	栗本美香子		

#### 令和7年度

米田 直紀	片山 宏美	荒井 隆美	木下 真紀	川口 能史	馬越 敦子
森 和子	田内 幸代	濱口 智子	大下 真季	岩田 由美	土橋 由佳
宮下 鉄矢	佐々木恭子	富永 俊介	長野 麻衣	蒲原 美沙	吉田 夏実
田中みゆき	中桐 奈美	前川 勇太	増田 智美	板東 佑哉	横瀬 実郁
七條 鈴菜	八代 里桜	北田 育世	岩佐 壽子	渡辺いわえ	濱條 敦代
伊達 昌宏	小笠原利恵	武市 三喜	八田 万美		

注意：この紀要に掲載されている写真や図表などを本校校長に無断でインターネット上に転載・公開することを禁止します。